

公立大学法人 滋賀県立大学

# 「近江楽座」

2020年度 活動報告書

近江楽座は「学生らしさを生かして、地域に学び、育ち、貢献できる場」を目指しています

## 地域活動が生み出す縁と出会い

災いが蔓延する時代にこそ大切にしなければならぬのは人々の絆とつながりだろう。しかし、地域の血縁や地縁の結びつきが強くなることで、よそ者である学生たちは、地域の現場に容易に入ることができなくなっている。また企業や大学と契約によって結ばれている地域との絆は、細く脆く、次第に雲散霧消してしまっている。一部の強い縁が影響して、広く多様な地域に無縁社会を生んでいることも事実だ。そんな状況下で、自身の無垢な目的やモチベーションによって心動かされ地域に寄り添っていく学生たちの自主的な活動は、地域の門戸を緩め、次第に血縁を超えた地縁を生み出すことにつながっていくのではないだろうか。勝手な口実で入った地域であっても、予想しない相手と予期しない仕方や場所で遭遇する偶然的な出会いこそが、相手を受け入れ、対話の第一歩となっていく。そして相互の理解が深まり、地域の課題に協働して取り組む姿勢が、皆の期待に変わってくるのである。こんな時代であっても学生たちや地域の人たちの活動に停滞はない。地域にうまく埋没して心強い地域人として互いに紡ぎ合い、しっかりとした絆を結んでいく彼らの姿が想像できる。地域への愛着が生まれ、活動の目標を全く疑うことなく、学生たちは地域の課題解決の当事者となって行動していくのである。成功物語や様々なお手本を真似しようとするが、そんな初々しさも、多様な地域性や、現在の世界状況のような異例の事態には対応できないことを次第に知ることになる。こんな事態の中では優等生的に結果、成果を目標にプログラムされた活動は役に立たない。即興的に対応できる判断と行動力が必要だ。多くの軋轢を生んでも、「学生の分際」という肩書が大目に見てくれるだろう。地縁が作り出す人間関係や、赤の他人とのお縁づくりがこれからの地域に

は求められている。よそ者で素人の学生たちだからこそ、地域の人たちの懐に入って、お縁のきっかけを誘発することができるだろう。私たちの社会は、今やこんな若い学生たちの力で支えられるほどひ弱で、無責任な地域を形成してしまっている。学生たちが学ばせてもらえるようなしっかりとした地域、そして地域も一緒に学び成長していくような関係こそ、縁と言えるのではないだろうか。学生が大学生活の中で地域との出会いを得ることこそが、これからの地域づくりの継承、持続の鍵となるはずだ。

私の研究室からはすでに3名の地域おこし協力隊員を輩出している。地元滋賀県、宮城県、北海道で、まちづくり支援、地域産業支援、文化デザイン事業などで活躍している。近江楽座で活動した学生たちが、卒業後社会に出てさらなる地域との出会いによって多くの縁を生んでいくだろう。地域や社会が、個人主義的な無縁な世界に向かっていく現実に対して、これからの未来、将来の地域を築いていく若者たちが、人々の絆、地域どうしの繋がりを企て、地縁のある社会を生んでくれることを願わずにはいられない。そのためにも、大学や地域は彼らへの投資を惜しんではならない。

2021年12月








近江楽座専門委員会委員長

印南比呂志

(人間文化学部 生活デザイン学科)



# 目次

	はじめに	1
	<b>1 近江楽座について</b>	<b>5</b>
	1-1 近江楽座とは	6
	1-2 プロジェクト区分	7
	1-3 プロジェクトの採択について	8
	1-4 新型コロナウイルスへの対応	10
	<b>2 各プロジェクトからの活動報告</b>	<b>11</b>
	2-1 活動実績報告	11
	2-2 『らくざしんぶん』	50
	<b>3 共通プログラムの報告</b>	<b>55</b>
	3-1 活動成果報告会	56
	<b>4 学生有志活動</b>	<b>59</b>
	4-1 近江楽座 合同説明会	60
	4-2 新入生に向けてのメッセージ	61
	4-3 WEB オープンキャンパス	62
	4-4 キャンパス SDGs びわ湖大会 2020	63
	4-5 B プロジェクト「県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト」	64
	<b>5 その他トピックス</b>	<b>65</b>
	5-1 「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰	66
	<b>6 情報発信</b>	<b>67</b>
	6-1 ホームページ、リーフレット、 キャンパスガイド、活動紹介動画	68
	<b>7 付録</b>	<b>69</b>
	7-1 プログラム推進メンバー	70
	7-2 メディア掲載一覧	71
	7-3 新型コロナウイルス感染拡大防止のための 近江楽座活動指針	73
	7-4 新型コロナウイルス関連の対応(まとめ)	75



## 1 近江楽座について

滋賀県立大学の「近江楽座」は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定し、全学的に支援する教育プログラムです。

2004年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に採択され、2006年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取組として学内外で高く評価されました。そして、翌2007年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、2020年度までの17年間で延べ380のプロジェクトが地域と連携した活動を展開しています。

## 教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

- 地域の課題に学生・大学が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

## 3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局(地域共生センター)の連携の下、3つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

### 活動助成システム

「近江楽座」として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。

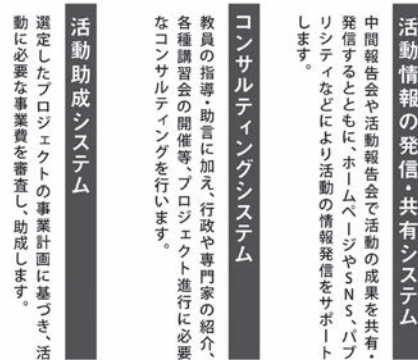
### コンサルティングシステム

教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介、各種講習会の開催など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。

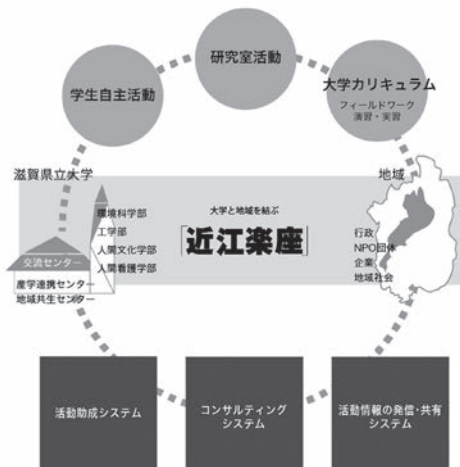
### 活動情報の発信・共有システム

中間報告会や活動報告会で活動の成果を共有・発信するとともに、ホームページやSNS、パブリシティなどにより活動の情報発信をサポートします。

#### <3つのサポートシステム>



#### <サポートシステム概念図>



## 1-2 プロジェクト区分

2007年度より、「地域活性化への貢献」をテーマに学生主体の地域活動を行う「Aプロジェクト(学生主体型プロジェクト)」に加え、自治体や企業等から提示された課題について、学生主体のプロジェクトチームを結成し活動する「Bプロジェクト(地域協働型プロジェクト)」がスタートしました。

### Ⅰ Aプロジェクト(学生主体型プロジェクト)

SDGsの視点を踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を3つの区分で募集し、支援するプロジェクトを選定しています。

#### ① 継続プロジェクト

過去に近江楽座の助成を受けたことがあるプロジェクト。

#### ② 新規プロジェクト

近江楽座の助成を受けたことがないプロジェクト。

#### ③ Sプロジェクト(2011年度～)

近江楽座でのこれまでの実績をもとにステップアップを目指し、活動資金の助成を必要としない自立したプロジェクト。(上位 senior、特別 special のS)

### Ⅱ Bプロジェクト(地域協働型プロジェクト)

自治体や企業、団体等から依頼のあった課題について、「近江楽座」として取り組むテーマを設定し、学生主体のプロジェクトを募集します。学生チームにはテーマに対する企画提案を求め、採択されたチームは、指導教員と地域共生センターが支援し、依頼先と共同で取り組みます。

#### Aプロジェクト(学生主体型プロジェクト)

SDGsの視点を踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト。

##### ① 継続プロジェクト

##### ③ Sプロジェクト(2011年度より開始)

活動資金の助成を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指す取組

##### ② 新規プロジェクト

#### Bプロジェクト(地域協働型プロジェクト)

学生が主体となって取り組むのがふさわしい自治体や企業等から提示された課題に、学生チームと依頼先とが協働で取り組むプロジェクト(2007年度より開始)



## Ⅰ プロジェクト募集期間

Aプロジェクト

日 時：2020年8月6日(木)～8月31日(月)

2020年度は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための近江楽座活動指針」を踏まえ、地域の方々や団体等と感染拡大防止策をはじめ、活動方針を協議した上で応募することを求めました。

また飲食を提供する活動と海外の現地での活動は募集の対象外としました。

## Ⅱ 応募件数

Aプロジェクト 22チーム

- ・継続プロジェクト21件  
(うちSプロジェクト1件)
- ・新規プロジェクト1件

## Ⅲ プロジェクト審査

Aプロジェクト「プレゼンテーション・審査会」

日 時：2020年9月8日(火) 12:30-17:15

場 所：中講義室 A7-101

内 容：プレゼンテーション(プレゼンテーションシートによるプロジェクト説明) および質疑応答、審査(非公開)  
参加者の密集を避けるため、会場に入る発表者の入替えを実施。

選定委員(順不同 敬称略)：

- 滋賀県立大学 地域連携担当理事  
地域共生センター長 高橋滝治郎
- 滋賀県立大学環境科学部 講師 平山奈央子
- 総合地球環境学研究所 研究員 嶋田奈穂子
- 元まちづくり会社まっせ 事業マネージャー  
田口真太郎
- 滋賀県立大学人間文化学部 教授  
近江楽座専門委員会 委員長 印南比呂志

## Ⅳ 採択および採択通知

Aプロジェクト

日 時：2020年9月11日(金)

通知方法：近江楽座ホームページおよび学生ホール掲示板にて通知

## Ⅴ 採択件数

Aプロジェクト 20チーム

- ・継続プロジェクト20件  
(うちSプロジェクト1件)

## Ⅵ 活動説明

日時：2020年9月16日(水)～

例年、採択プロジェクト代表者に対する事業計画、会計処理等の進め方に関する説明会を対面で実施していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、実施方法を変更しました。

近江楽座ホームページに活動についてと助成金の執行のマニュアルを掲載し、Microsoft Formsでマニュアルの理解度チェックを行いました。

## <プレゼンテーション・審査会 スケジュール>

時間	発表順	区分	採択年数	チーム名	プロジェクト名
12:30~12:35	はじめの挨拶				
12:35~13:25	1	新規・継続	—	DANWASHITSU	DANWASHITSU
	2	新規・継続	15年(2005~)	鹿薬物/ハスターズ	鹿薬物/ハスターズ
	3	新規・継続	11年(2009~)	あかりんちゅ	あかりんちゅ
	4	新規・継続	4年(2016~)	BAMBOO HOUSE PROJECT	BAMBOO HOUSE PROJECT
	5	新規・継続	8年(2012~)	たけともミライ	たけともミライ
	6	新規・継続	14年(2005~)	フラワーエネルギー「なの・わり」	フラワーエネルギー「なの・わり」
	7	新規・継続	2年(2018~)	子ども学習支援サポーターズ	子ども学習支援サポーターズ
13:25~13:35	休憩				
13:35~14:25	8	新規・継続	2年(2018~)	Jesuit House Project	Jesuit House Project
	9	新規・継続	7年(2013~)	政所茶レン茶 ー	政所茶レン茶 ー
	10	新規・継続	4年(2016~)	座・沖島	座・沖島
	11	新規・継続	9年(2011~)	滋賀県大生き物研究会	内湖の再生と地域の水辺コーディネート
	12	新規・継続	11年(2009~)	とよさただプロジェクト	とよさただプロジェクト
	13	新規・継続	10年(2010~)	おとくらプロジェクト	おとくらプロジェクト
	14	新規・継続	8年(2012~)	かみおかへ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-	かみおかへ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-
14:25~14:35	休憩				
14:35~15:31	15	新規・継続	16年(2004~)	未来看護塾	未来看護塾
	16	新規・継続	8年(2012~)	スチューデント・キュレイターズ	地域博物館プロジェクト
	17	新規・継続	9年(2011~)	木興プロジェクト	木興プロジェクト
	18	新規・継続	16年(2004~)	とよさと快蔵プロジェクト	とよさと快蔵プロジェクト
	19	新規・継続	14年(2004~)	ボランティアサークルHarmony	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト
	20	新規・継続	16年(2004~)	Taga-Town-Project	Taga-Town-Project
	21	新規・継続	1年(2019~)	カティプロジェクト	ハティヤール村カティプロジェクト
	22	新規・継続	7年(2013~)	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム
15:31~15:35	終わりの挨拶				
16:00~17:15	審査会(別会場にて非公開で開催)				

## <プレゼンテーションの様子>



### Ⅰ 学生アンケートの実施 (5/25-)

「2020年度の活動について」のアンケートを実施しました。これからの活動で不安なこと、困りごとはないかを尋ね、アンケートの内容で公開の許可を得たものは近江楽座チームで共有しました。

### Ⅰ 活動指針の策定 (8/6)

近江楽座では「クラブ・サークルなどの課外活動指針」(学生支援センター)に基づいて「新型コロナウイルス感染拡大防止のための近江楽座活動指針」を定めました。

活動指針の内容については73ページ「7-3 新型コロナウイルス感染拡大防止のための近江楽座活動指針」を御覧ください。

### Ⅰ 活動計画・実績報告書の提出

月毎に活動計画、実績報告を提出。活動実施についての許可や必要な指導を行いました。

### Ⅰ プロジェクト情報交換会 (10/30、11/4、11/5)

新型コロナウイルスの影響で近江楽座の募集を延期し、9月11日から活動を開始しました。活動を再開してしばらく経ったタイミングで、チームの活動状況や活動を始めて感じた課題などを共有するためプロジェクト情報交換会を行いました。

<内容>

- ・事務局からのお知らせ  
新型コロナウイルスに関する注意喚起
- ・各チームからの報告  
現在の活動状況や問題、課題の共有

## 2 各プロジェクトからの活動報告

### 2-1 活動実績報告

01	BAMBOO HOUSE PROJECT. . . . .	12
02	未来看護塾 . . . . .	14
S 03	あかりんちゅ . . . . .	16
04	とよさと快蔵プロジェクト . . . . .	18
05	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト . . . . .	20
06	内湖の再生と地域の水辺コーディネート. . . . .	22
07	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY- . . . . .	24
08	廃棄物バスターズ . . . . .	26
09	フラワーエネルギー「なの・わり」. . . . .	28
10	座・沖島 . . . . .	30
11	政所茶レン茶ター . . . . .	32
12	とよさらだプロジェクト . . . . .	34
13	おとくらプロジェクト . . . . .	36
14	Taga-Town-Project . . . . .	38
15	地域博物館プロジェクト . . . . .	40
16	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム . . . . .	42
17	たけともミライ . . . . .	44
18	Jesuit House Project . . . . .	46
19	木興プロジェクト . . . . .	48

S : Sプロジェクト

次ページ以降のチームデータについて  
補足説明

※近江楽座活動年度について

○ : 不参加

● : 参加

を示しています

※メンバー数は、活動に関わった学生の  
総数です。

# 01 BAMBOO HOUSE PROJECT



## 生きる自然は地域を育む

全国、どこにでもある放置竹林。この問題を地域の方々と学生が協力して解決しようという取組です。滋賀県湖南市菩提寺区の竹林で、毎年竹林整備を行い、その際に出た竹腐材を再利用し、子どもや地域の方々が集まる憩いの場となることを目指します。

### TEAM DATA

チーム名：BAMBOO HOUSE PROJECT  
代表者：佐藤允哉（環境科学研究科）  
メンバー数：63名  
指導教員：陶器浩一（環境科学部）  
活動場所：滋賀県湖南市菩提寺  
関係団体：菩提寺まちづくり協議会  
近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 週末ワークショップ

★見出し写真：バンブーハウス1号解体（10/31）



ブランコ解体（11/14）



バンブーハウス2号補修（11/21）

### (2) 「竹の庭」全体計画

### (3) ポートフォリオ作成

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

このプロジェクトは、継続した活動が重要である。4月に菩提寺まちづくり協議会地域活性化委員会の皆様と1年間の活動内容の共有を行い、今年度も昨年と同様、竹の伐採に最適な10月から2月の5ヶ月間に渡り、週末を利用してワークショップを行った。

また、今年度は活動が始まって以来、一番多くの学生がワークショップに参加してくれた。環境建築デザイン学科の学生だけでなく生活デザイン学科の学生の参加も見られた。今年度は宿泊を行わずに週末ワークショップを行ったため、一日だけの参加が容易になったことが功を奏したと考えている。来年度以降の活動形態を見直すきっかけにもなった。SNSなどで広報を行ったこともあり、他大学の人が興味を持ち、話を聞きたいと言っていたこともあった。これまでの先輩方や地域の方をはじめとした地道な取組が今、形として表れてきているのではないかと実感した一年でもあった。

バンブーハウス1号を解体したことで他の制作物も徐々に解体が近づいていると感じている。したがって来年度は大きな変換点になると考えている。ただ解体し更地にするだけではなく段階的に解体・再構築することで、既存の建築を残しながらも新たな場所を築いていくという方針の元、モノが変化しても場所としてはいい環境を残していきたい。

このご時世で例年のように活動ができなかったが、次なる活動を見据えて新たな全体計画を提案し、これからの竹の庭を語っていく貴重な期間でもあったと考えている。この「竹の庭」が地域の人々に愛され、地域に寄り添ってこの場が続いていくように、これからも継続して活動を行いたい。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

初めて参加し竹の種類や特徴について学びました。他の木材とは違う特有の性質を生かした構造物が印象的でした。一方で素材の竹が朽ちたりなどの劣化もみられ、メンテナンスすることの大切さも感じました。実際に竹に触れて作業できたので良い経験になったと思います。

西村安未 (環境建築デザイン学科1 年生)

自分だけではできない、大学だからできる経験をしたいと思い、活動に参加しました。竹を切り、竹の建築を補修するという、ほとんど単純な作業ですが、竹に囲まれながらする作業は楽しいです。作業中に子どもが入ってきて遊んで行くことがあり、その姿を見ると地域の人の為になっているのだと感じ、嬉しく思います。

中田陸 (環境建築デザイン学科2 年生)

プロジェクトの話を聞いて竹から何が作れるのか、どうやって作るのかに興味を持ちました。そして、他にはない経験ができるのではと思いプロジェクトに参加しました。参加してみて、ものづくりにかかる労力や時間をリアルに感じる事ができ、材料に実際に触れながら作業ができる貴重な体験ができました。

古田愛佳 (環境建築デザイン学科1 年生)

今年のバンブーハウスプロジェクトに参加し、そこで初めて竹刈りや、竹を使った製作を行いました。竹は木と違いとてもしなやかであるにも関わらず、人が乗っても大丈夫な頑丈さもあると知り、とても興味深く、もっと竹と関わってみたいと思います。今年も参加しました。そしてまた来年も参加したいと思います。

箱田里菜 (環境建築デザイン学科2 年生)

## 地域からのコメント (抜粋)

菩提寺まちづくり協議会 地域活性化委員会 委員長 浅井基義さん

今回は、新型コロナウイルスの影響で、学業にも大きな影響があった事と推察します。皆さんも思うような活動ができない年になったかと思います。コロナ禍の中、8年前に製作した1号機も、補強や修理を毎年行っていました。老化を迎え、安全の為に解体する事となりました。長年竹林の入り口に船が空中を浮いているようなシンボリックな建造物が消えてしまう事は大変寂しい思いです。新型コロナウイルスの終息は、まだまだ難しいとは思いますが、今後活動ができる範囲で1号機の跡地に、地域の皆さんがくつろげる施設の製作を学生の皆さんと作っていきたいと思います。ほぼ毎日、地元の子もたちが竹林に遊びに来ています。これからも皆様の御協力よろしくをお願いします。

## 指導教員より (抜粋)

環境科学部 陶器浩一

当初は例年通りの活動を行う予定であったが、コロナ禍の影響で現地での作業がほとんどできず、また地元中学校との交流(中学校に出向いての講義講演、および竹林での演習)は中止となった。

前期は地域の方々も現地に立ち入ることができず竹林もやや荒れた状態になっていた。秋に少し活動ができる状況になったため、まず現状調査、および今年度実施可能な現地作業を協議した。10月~11月に行ったワークショップでは多くの参加希望者がいたが、密を避けるため人数を調整して複数回に分けて分散して行なった。1月にも開催予定であったが、大学の行動レベルが厳しくなったためそれ以降の現地ワークショップは取りやめた。それに代わるものとして、地域の方々へのヒアリングおよび現地調査に基づき、今後の全体計画のマスタープラン(未来図)を協議して作成した。来年度も思うような活動が可能かどうかは未知数であるが、この場所と地域の未来図の実現に向けて、活動を途絶えさせることなく続けていってほしい。

## 新型コロナウイルス関連の対策

### ・新たな取組

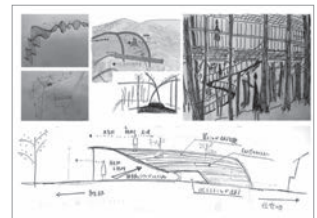
- ・週末ワークショップの日帰り化
- ・「竹の庭」全体計画着手(現地での活動自粛期間を利用)
- ・オンラインの活用(全体計画の模型づくり、地域の方々とのミーティングなど)

## DELIVERABLE

## 成果物 / 制作物



ポートフォリオ



全体計画

## 02 未来看護塾



※写真は2019年に撮影したものです。

### 地域の人々の心も体も生き生き健康に！

地域に住むさまざまな人々の交流や病院でのリラクゼーション活動などの健康支援活動を通じて、心も身体も健康にその人らしく生きることを志向するとともに、未来の看護のあり方を考えていきます。

#### TEAM DATA

チーム名：未来看護塾  
代表者：北村天音（人間看護学部）  
メンバー数：204名  
指導教員：伊丹君和、米田照美、関恵子、千田美紀子（人間看護学部）  
活動場所：学内、彦根市  
関係団体：彦根市立病院、特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウス 他  
近江楽座活動年度：[2004](#) [2005](#) [2006](#) [2007](#) [2008](#) [2009](#) [2010](#) [2011](#)  
[2012](#) [2013](#) [2014](#) [2015](#) [2016](#) [2017](#) [2018](#) [2019](#)

#### PROJECT

#### 実施事業

- (1) ボランティア活動再開に向けての計画、準備
- (2) 城南小学校保健室訪問
- (3) NPO ぽぽハウス訪問
- (4) 定例ミーティング

### 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の未来看護塾の活動は、新型コロナウイルスと共存する生活の中で私たちに何ができるのかと模索し続けた一年間となった。

先輩方や先生とオンラインでの話し合いを重ね、OB・OGの先輩方からも実際の医療現場や教育現場の声を届けていただきながら、私たちが今できる活動を考えてきた。そんな中で新たに始めた活動が、城南小学校保健室訪問である。医療現場・教育現場の人手不足の現状があると聞き、病院へのボランティア支援は難しいとのことであったが、大学の近くの小学校へ何かお手伝いできることはないかと声掛けを行ったところ、城南小学校さんからぜひ来ていただきたいと言っていただくことができた。現在、学校では通常の業務に加えて消毒作業、清掃、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながらの健康診断、生徒への指導など、目まぐるしい激動の日々が続いている。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、少しの間学校が休みになったことで、不登校・保健室登校の生徒が増えたこと、さらに養護教諭の方の負担も増えてしまうため、私たちがお手伝いすることで、少しでも負担を減らすことが可能なのではないかと考えた。実際、児童と一緒に活動させていただいたり、ポスターを作成したり、保健委員会活動のお手伝いをさせていただくなど様々な活動をさせていただいた。

今年度の活動は予測よりも厳しく、思い通りにいかないことが多かったかもしれない。しかし、この一年間は、看護学生である私たち、将来看護職に就く私たちであるからこそ、できることは一体何だろうか、どうすれば地域の方々や今、懸命に働く人たちの力になれるのか、みんなで一緒に考えを深められた期間となった。この一年間の思考を深めた時間、学びの時間を糧に、来年度から必ず、以前よりさらにパワーアップした活動ができると信じている。

## 活動を通して学んだこと

今だからこそ、私たちにできることは何だろうか?そんなことを自らに問い続けた一年間だった。思うような活動ができなかったが、今の私たち、医療現場、地域の方々への思い・考えを深められた一年間であった。この学びを無駄にせず、来年度に繋げていきたい。

北村天音（人間看護学科2回生）

新型コロナウイルスの感染拡大で、例年のような病院や保育園等での活動があまり行えなかったが、未来看護塾の新たな形の活動に向けて色々考えることも多く、来年度の活動に生かしたい。また、学年を越えての繋がりを深めることが難しかったので、コミュニケーションを図っていきたい。

西村圭輔（人間看護学科2回生）

新型コロナウイルスの影響で地域での活動が制限されたが、未来看護塾の先輩方や先生方など、実際に医療現場で活躍されている方からの声を元に、将来、医療従事者になる私たちだからこそできる活動はないだろうかと考えを深めることのできた1年だった。ここで深めた考えを来年度、是非、実現していきたい。

宮本睦（人間看護学科2回生）

## 指導教員より（抜粋）

人間看護学部 伊丹君和

「未来看護塾」は、滋賀県立大学人間看護学部の1期生たちが立ち上げました。それ以来17年間途絶えることなく、「近江楽座」のプロジェクトチームとして活動を継続してきましたが、今年度はコロナ禍のため活動がほとんどできない状態となりました。

本来、未来看護塾の活動目的は、「地域のさまざまな人々が心も体も生き活きと健康な生活が送れるよう支援する」ということであり、コロナ禍だからこそ、地域に在住するさまざまな健康レベルの方々に感染予防について啓発していくことも大切です。また、いつ起こるか分からない災害への対策をはかる必要もあります。課題は山積みです。

今年度、地域での活動はほとんどできませんでしたが、コロナ禍であっても自分たちにできることは何か、どうしたらできるかを考え、模索し、できることを工夫していくこと、そのプロセスが大切だと思っています。市内の病院や施設、学校や保育園、障がいをもつお子さんや高齢者の方々と健康支援・交流活動、大学内の教職員や学生を対象とした健康支援活動、毎年実施していたビバシティ彦根における「応援!生き活き健康生活」など、来年度こそは活動再開できることを願っています。

学生の教育効果と地域貢献の両者が結びついた「近江楽座」、そして「未来看護塾」の益々の発展と継続を望むとともに、これからも支援していきます。

## 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・打合せ内容の事前共有と時間短縮
- ・作業内容の分散とオンラインの活用





## エコでスローな夜を

お寺などから使えなくなったろうそく、「残ろう」をいただき、それを再利用してリサイクルキャンドルを作り、キャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドル販売などを行っています。自分たちで運営資金をまかない、独自予算で活動している唯一のSプロジェクト。

### TEAM DATA

チーム名：あかりんちゅ  
 代表者：極壇雛（人間文化学部）  
 メンバー数：18名  
 指導教員：平山奈央子（環境科学部）  
 活動場所：学内、彦根市、滋賀県内 他  
 関係団体：滋賀教区浄土宗青年会  
 近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

### PROJECT

### 実施事業

- (1) OKB ストリートキャンドルナイト  
★見出し写真：キャンドルナイトの様子（12/04）
- (2) SNS アカウント運営
- (3) 残ろう回収
- (4) USP 大新歓
- (5) 講義『近江の暮らしととりわい』に登壇
- (6) 新入生向けクラブ紹介
- (7) キャンドル制作（商品開発）



キャンドル作製風景（10/11）

- (8) 湖風祭用クラブ紹介動画作成
- (9) キャンドルホルダー追加

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度はコロナ禍でなかなか活動できない状況が続いたが、SNSのアカウントの運営を開始したりオンライン新歓に参加したり、ネット上での新入生勧誘を行い、昨年度と同じ5名の新入生に入ってもらえた。また2回生も数名入ったため、メンバー総数としてはかなり充実させることができたが、参加メンバーは固定的で、人手の多さを活動に生かすことができなかった。またSNSもあまりフォロワー数を増やすことができなかったため、より工夫した運営が必要である。

今年度はキャンドルの定期制作を毎月確実に行ったので、新たなオリジナルキャンドルを数多く作れたが、販売の機会を用意することができなかった。来年度もコロナ禍の状況が続くことを想定して、ネット上での販売なども検討する必要がある。

キャンドルナイトは、あまり依頼をいただくことができず、湖風祭もなくなり、数をこなせなかった。学内イベントなど、自分たちから積極的に開催していく必要もあると考える。また、再開を検討していたハンドベルも準備することができなかったため、来年度こそは楽譜の整理などから準備を進められるようにしたい。

活動申請時に「活動の仕組みや過程をまとめたもの」を作成するべきであるという指摘を受けたが、あまり進めることができなかった。活動の記録をSNS上に残したりメンバー内で共有したりする工夫はしたものの、外部に向けての発信はほとんど行っていない。こういった形で残していくべきなのかを明確に考えていきたい。

今年度の終わりに、ある団体にお声がけいただき、リースペースをお借りできることになった。まだ考案段階ではあるが、イベントを自発的に開催していくことが可能になるかもしれない。来年度はこの企画を安定したものにしていきたい。

## 活動を通して学んだこと

仲間と協力する大切さと、キャンドルの温かさ。1人では材料を運ぶのが難しかったが、みんなで分けて作成ラボに運んだので、無事、キャンドル作りができた。また、ろうは温めると温かく、触っていると気持ちよかった。

桑原裕太（材料科学科1年生）

細くとも継続して情報発信・活動を行うことの大切さを学べた。実際に参加するとキャンドルは様々な種類と作り方があったことがわかった。月1回程度で数えるほどしか参加できていないが、次の活動を楽しみにしている。これは、キャンドルの持つ魅力と様々な行事に参加したことによる期待感からきているのだろうと思う。

谷野克海（環境政策・計画学科2年生）

今年から活動に参加したが、廃棄されるろうそくがこんなにもあるのかと驚いた。溶けた温かいろうそくを触れているときに幸せだった。今までろうそくに親しみを持っていなかったが、点灯したろうそくがきれいなので心が穏やかになった。また銀行の人や地域の人たちと交流することができたのでとても楽しかった。

二輪百合子（国際コミュニケーション学科2年生）

みんなで協力する大切さ。1人では作れない量を部員と一緒に活動することによってたくさんの物を作り出すことができた。また、日常的に作るものではないものを作る楽しさを学んだ。あかりんちゅだからこそできる経験であり、多くの人に味わってもらいたい。

速水真喜（地域文化学科2年生）

## 地域からのコメント（抜粋）

株式会社大垣共立銀行 人事部 高橋良昌さん

今年はコロナ禍にあり、当然キャンドルナイトイベントの開催も例年の通りとはいきませんでした。しかし、広場に何本ものキャンドルを並べ、すであたりがうす暗くなったなかで点火し終わったときには、達成感とともにどこかあたたかく心強い気持ちが沸いてきたことを思い出します。

広場のキャンドルが並ぶ中に入ってみると、一つひとつが放つ熱や光を直に感じられ、いまや日常でなかなか触れる機会のない火そのものの力に魅了されました。不思議と寒さも、それまでの気忙しいさも忘れていました。御参加いただいた地域の方々にもそれぞれいろんな思いがあったかと思えます。

遠くからお越しいただき、そしてとても寒い中作業していただいたあかりんちゅの皆様には感謝の意をお伝えしたいと思います。是非、今後とも OKB ストリートの発展にご協力いただけたらと思います。

## 指導教員より（抜粋） 環境科学部 平山奈央子

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、活動の機会が少なく、活動の実施方法も例年とは違った対応が必要だったかと思えます。そのような状況の中、これまで通り依頼をしていただいたイベントがあったことや制限のある中で活動できたことはよかったと思えます。

大学生の活動は活動者が年々変わることが大きな特徴です。それと同時に、組織運営や活動内容の見直しや継続を考える必要が出てきます。もちろん1年ごとの目標や活動計画はあると思いますが、社会貢献、地域貢献を考えた場合に、あかりんちゅが解決したい課題は何なのか、その課題は地域の現状に合っているのか、大きな課題の中であかりんちゅが貢献できる部分はどこなのか、などについてメンバーで話し合ってみることをお勧めします。今後も魅力ある活動を行っていくために、中期目標・計画を立てる時期にきているかもしれません。中期目標・計画のもとに毎年の活動計画を立てることで自分たちが何を目指していて今どの段階までできているのかを確認することができます。また、活動メンバーそれぞれに考えが違うのでそれらを共有する、また、歩み寄りいい機会になると思います。

## 新型コロナウイルス関連の対策 ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・SNSでの積極的な情報発信

## DELIVERABLE 成果物／制作物



オリジナルキャンドル

# 04 とよさと快蔵プロジェクト



## 古民家改修でまちを元気に

豊郷町には使われなくなった民家や蔵が点在し、問題となっています。空き家というまちの資産を活用し、空き家改修だけにとどまらず地域のイベントの参加やイベント企画、蔵を改修した Bar 運営など幅の広い活動を行い、まちの方と共にまちを盛り上げています。

### TEAM DATA

チーム名：とよさと快蔵プロジェクト

代表者：岡田龍介（環境科学部）

メンバー数：98名

指導教員：迫田正美（環境科学部）

活動場所：滋賀県犬上郡豊郷町

関係団体：NPO法人とよさとまちづくり委員会

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011

2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

### (1) お酒と眠る町計画



モチベーションマップの作成 (09/17)

### (2) タルタルーガ改装



キッチンに吊り棚を設置 (11/08)

### (3) 新入生体験会

### (4) とよさと雑巡り

★見出し写真：とよさと雑巡りの展示 (01/12)

### (5) 道具倉庫整理

### (6) 四十九院旧公民館プレゼンテーション

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の活動を通して二つの課題が見えた。ひとつは情報共有の質を高く保つこと。新型コロナウイルスの影響により前期は活動ができず、後期に活動が再開したが、年末あたりからはまたオンライン上での活動のみとなり、一年間のうち四分の三をオンラインでのやり取りのみに制限されてしまった。これにより例年では起こりえなかった大小さまざまな問題がおこり、それらの多くがオンラインによる情報共有の質の低下によるものだった。この原因は明確で、私たちがオンラインでのコミュニケーションに慣れていなかったからだ。オンライン上で複数人が一つの議題について話すことが難しかった。回数を重ねることにこれらは改善していき、またオンライン会議用のソフトが次々に出たため質は向上していった。これらの課題に直面することで、ミーティングの内容だけでなく、ミーティングの質の重要性についても改めて学ぶことができた。

もうひとつは少人数で大規模プロジェクトを運営する大変さだ。昨年度に描いていたビジョンでは、運営側の人数を抑えることで動きをコンパクトにし、頻繁に話し合いを行うことで情報共有を密にし、またタスクも都度適正に割り振り協力していく予定だった。しかし実際には運営のオンライン化に伴い、メンバー間のコミュニケーションの質が下がり、運営がし辛く、またタスクをうまく分散することができなかった。これは対面時とオンライン時で適切な運営方法や運営人数があるからだと思う。描いていたビジョンは複数人と同時にノンストレスでやり取りできることが前提であり、コアメンバーそれぞれがそれぞれと複数のパスを持っていることが必須だった。しかしオンラインでは、複数人のコミュニケーションにおいて、それぞれがそれぞれと複数のパスをもっている、一つずつ順番にしか使えないイメージだった。このことを踏まえると、オンライン時はコアのさらに中心のひとと多数のコアという組織図がよいかもかもしれない。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

豊郷町の人の暖かさを感じる場面が何度もあった。建物を改修する中で技術や知識を吸収することが第一目的だったので、その面では成長できたと感じている。実際に一番成長できたのは、町の方や作業と一緒にしている人との関わりの中でのコミュニケーション能力や、集団の中でどう動くべきかなど、次を考える力だと思う。

上紺屋悠馬 (環境建築デザイン学科 1 回生)

まちの人とも昨年より深くお話する機会があった。そして、私はこのプロジェクトがどれだけ多くの方に支えられ、愛されているのかを実感することができた。来年度から代表を務める。同じ気持ちを多くのメンバーに感じてもらえるように、そして支えてくださっている多くの方々に恩返しができるような活動をしていきたい。

川崎恵李 (生活デザイン学科 2 回生)

いかにたくさんの方々を支えられているかということを実感した。お会いできない中でも、まちの方々が学生のことを気にかけてサポートしてくださり活動することができた。1 回生のときは改修やイベントに参加しているだけだったけれど、副代表として活動して周りの方々の協力がどれだけありがたく、大きなものであるか痛感した。

岩田禅人 (環境建築デザイン学科 2 回生)

新型コロナウイルスにより自分の理想とは離れた一年になることがわかっていたので、後輩たちにつなぐための年であると考え、活動した。昨年までの恵まれた環境に感謝の気持ちが芽生えた。今年の自分の選択が快哉と豊郷町にとって良いものであり、来年度は後輩たちが悔いのない活動を行える一年であること願っている。

岡田龍介 (環境建築デザイン学科 3 回生)

## 地域からのコメント (抜粋)

**NPO 法人とよさとまちづくり委員会 理事長 北川稔彦さん**

今年、皆さんとはなかなかお会いできず、寂しく思う反面、こんな状況下においてもできる範囲で活動をしてきてくれたことを嬉しく思います。来年こそは夏の改修や秋のイベントなどでお会いできる日を楽しみにしています。

**NPO 法人とよさとまちづくり委員会 副理事長 岡村博之さん**

今年は苦しい一年になったと思いますが、それでも活動を続けられたことが本当に素晴らしいことだと思います。

毎年のように思うことではありますが、この時期にはプロジェクトの卒業生が社会に旅立ち、一方で新たに新入生が加わります。メンバーも変わる中で、この勢いを止めることなく今年度の活動を良くやりきったなと思います！

皆さんが手掛けてくれたもの一つひとつの物件には、それぞれに学生の魂が吹き込まれています。その魂を断たさぬよう、この地域に住む我々がしっかり受け継いでいくことが皆さんへのお返しであると考えています。

## 指導教員より

環境科学部 迫田正美

今年度は新型コロナウイルス発生というイレギュラーな一年となり、なかなか満足に活動を行える環境ではありませんでしたが、そんな中でも折れずに、自分たちの知恵を出し合い今年度を準備期間であるとして活動をしていったことは、学生メンバーにとって良い経験になったことと思います。この状況下でも地域の専門家や社会に出た先輩たちとの協力関係を築けていることは素晴らしいことです。ますます活動の幅を広げていってくれることを期待しています。

来年度は学生、そして地域の方ともにこの状況になれた状態で活動が始まるものと思われるので、まちづくり委員会の方々との連携を深めるとともに、行政の方々とも十分に意見交換しながら、今年度の準備を生かしながら活動を展開してくれることを期待しています。

## 新型コロナウイルス関連の対策

### ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・地域の方と相談、十分な理解を得た上で活動
- ・リモートで行える活動の場合は、極力リモートで実施

# 05 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト



モットーは「無理なく、楽しく！」

障がい者を有する人と学生が互いに成長することを目的に、NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーの支援活動を行っています。活動を通じて、障がい児・者を支える地域づくりを推進することも目指しています。

## TEAM DATA

チーム名： ボランティアサークル Harmony  
代表者： 中森麻由（環境科学部）  
メンバー数： 14名  
指導教員： 中村好孝（人間文化学部）  
活動場所： 学内、彦根市、東近江市  
関係団体： NPO法人障害者の就労と余暇を考える会 メロディー  
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

- 1) 定例活動  
★見出し写真：油絵制作（12/29）
- 2) 定例会議
- 3) 2020年度近江楽座合同説明会
- 4) 令和2年度定例活動作品展



愛知川図書館での展示（09/26）

- 5) 第18回 Harmony & Melody クリスマスコンサート2020
- 6) 「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰受賞報告会



滋賀県知事に受賞を報告（01/15）

- 7) 送別会

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）

活動を通して、新しいことへの挑戦が増えた1年になりました。コロナ禍により、オンラインでのクリスマスコンサートや定例会議が増えました。その分、資料の作成やライセンスに対する知識が身につきました。より良い社会にしていけるためにも、情報モラルを守り、活動できたことは良かったです。また、中止になった活動についても、メロディーの方々とのやり取りを通じて、部員間での情報共有が前年度よりも頻繁に行えたことがモチベーションの維持につながったと考えております。今後の活動に関する課題は、PR・宣伝活動の低下についてです。現在、新3回生が6名、新2回生が2名ということで、新規入部の方が減少傾向にあります。しかし、TwitterやInstagramなどのSNSでの発信によって、多くの方に注目されています。そこで、来年度は簡単に入部できるシステムを導入しようと考えています。せっかく、「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰も受賞したので、それもPRしていきたいです。

（代表 中森麻由（生物資源管理学科3回生））

今年度はコロナ禍で活動自体が難しかったですが、オンラインによるクリスマスコンサートの開催や1回だけでも定例活動ができたことが大きかったと思います。クリスマスコンサートでは、オンラインで行うにあたり各個人の役割を分担してできていたと思います。定例活動では久しぶりに皆さんと油絵活動ができ、有意義な活動となって良かったです。今後も感染対策をしっかりと行いつつ、定例会議等でメロディーの方々やと学生が連携を取りながら、できる範囲で活動していけたらと思います。状況にもよりますが、今後も活動が困難である場合はオンラインで行う活動（交流会等）も視野に入れて考えていけたらと思います。また、来年度もクリスマスコンサートをオンラインで行うのであれば、Harmonyでの進行の仕方を具体的に話し合って改善できたら良いかと思っています。

（会計 船原瑞穂（生物資源管理学科3回生））

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

今年から活動に参加したので、12月の定例活動の際、自分に何ができるか分からなかった。しかし、障がいを持った方にとって Harmony のような「様々な人と触れ合い、活動を共にする機会」がとても重要で、コミュニケーションをとってお互いの意思を理解するだけでも意義があるということが分かった。

中村幸輝 (機械システム工学科 1 回生)

日々、チームの中でコミュニケーションを取ることの大切さ・SNS を用いた情報発信の意義を学んだ。Zoom・LINE を活用することで、例年にも増して、チーム全体がメンバーとしてのモチベーション維持につながった。また、Instagram などを活用し活動を多くの人に知ってもらえた。コロナ禍だったが、充実した一年だったと思う。

佐野文亮 (環境生態学科 2 回生)

活動の主な流れと障がい者をはじめとする人々の関わりを学べた。定例活動では重度の知的障がいをもつ人と初めて接し、予想外のことで戸惑うことも多かった。そんな中で、実際の交流や支援者の方との対話を経験することは、視野を広げることに役立ったと感じた。

池山理帆 (人間関係学科 1 回生)

活動を通して学んだことは、周りを見て行動することだ。今年あまり活動に参加できなかったが、12月に参加した定例活動では、適切に動く先輩方やその他のメンバーを見て、私もそうなるように頑張ろうと思った。

吉岡玲奈 (人間関係学科 2 回生)

## 地域からのコメント (抜粋)

びわこ学院大学教育福祉学部 講師 後藤真吾さん

振り返れば、特別支援学校の小学部に通う我が子の将来を憂える親が集まって 2002 年にメロディーの活動が始まりました。初めは親の学びが主な活動でしたが、子どもの活動を考えると一緒に活動してくれる専属のボランティアが欲しいということになり、滋賀県立大学の先生に相談したことで学生ボランティアサークルハーモニーが誕生することになりました。その後は、メロディーとハーモニーの二人三脚の活動が続いています。

最近ではメロディーのメンバーも青年になり、ハーモニーの方が年下になってきましたが、同世代との交流は得難い楽しみになっているようです。

今年度、COVID-19 の緊急事態を受け対面での会議が難しくなった時に、ハーモニーがホストとなって Zoom による会議を主宰してくれたことで滞りなく活動を進めることができました。今年度は対面での活動の多くを中止せざるを得ないという事態になりましたが、リモート会議や作品展の連続開催、ノベルティー作成などの新しい試みを実現できたことは大きな成果でした。

## 指導教員より (抜粋)

人間文化学部 中村好孝

新型コロナウイルス感染症の1年間で、定例活動は12月に1回だけ、クリスマスコンサートも会場では開催できなかった。しかし、こんな状況にもかかわらず、学生とメロディーの皆さんの創意工夫で色々な活動ができたことは、どんなに強調しても、しすぎることはない。定例の会議は Zoom で行い、クリスマスコンサートは YouTube Live で行い、作品展を地元の図書館や公民館で行った(公式の活動ではないかもしれないが、卒業生の送別会もオンラインで行なわれたようだ)。本当に頼もしい。

また今年度、「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞して、おそらくは学生や関係者の皆さんも同様だと思うけれども、続けることの大切さも感じた。現役で在籍している学生だけでなく、OB・OGの皆さんも、メロディーの皆さんも、おめでとうございます。

## 新型コロナウイルス関連の対策 ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・定例活動：創作活動(油絵・粘土制作)を実施、茶道体験は中止
- ・イベント活動：本サークルとメロディー関係者以外の参加を禁止。オンライン配信などの対面以外の参加については認める。
- ・定例会議：毎月1回 Zoom を利用して Harmony とメロディーの連絡事項や今後の活動予定について議論
- ・情報共有促進(定例会議資料の LINE での公開)

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



クリスマスコンサート チラシ

### <その他成果物>

- 定例会議議事録
- 定例活動作品展チラシ

# 06 内湖の再生と地域の水辺コーディネート



## 豊かな琵琶湖を取り戻す

琵琶湖の内湖である神上沼において、侵略的外来種の駆除や生息する魚類の調査を行っています。また、環境啓発活動を通じて地域の子どもたちに外来生物問題について知ってもらい、地元の水辺に親しみや興味を持ってもらえるような活動も行っています。

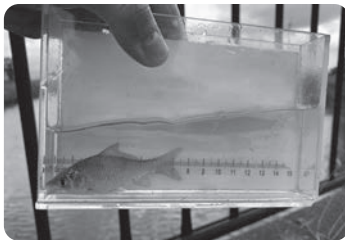
### TEAM DATA

チーム名：滋賀県大生き物研究会  
 代表者：谷口雄哉（環境科学部）  
 メンバー数：9名  
 指導教員：浦部美佐子（環境科学部）  
 活動場所：彦根市（神上沼）  
 関係団体：彦根市愛西土地改良区  
 近江築業活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

- (1) 神上沼における活動  
★見出し写真：在来魚調査（10/18）



在来魚調査（09/06）

- (2) 環境教育動画『とある琵琶湖にて』制作
- (3) キャンパス SDGs びわ湖大会 2020 へのパネル出展
- (4) オンライン勉強会

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

新型コロナウイルスの非常に大きな影響を受けた年度であった。そのなかでも、4月から7月までの大学の閉鎖によって、我々の活動が1年で最も活発になる時期に、湖風夏祭での生き物展示や愛西土地改良区の生き物観察会、近隣の小学校の出前授業のみならず、毎月の神上沼での定例調査までもが実施できなくなってしまった。

その分、後期からの対面授業の再開に合わせて活動を再開した後は、感染拡大防止対策をとりながら昨年度の同時期よりも活発に活動ができたと考えている。また、「ウィズコロナ」の活動として、Zoomを用いたオンライン勉強会やYouTubeへの小学生向け環境教育動画と新入生向け活動紹介動画の投稿、LINE公式アカウントを用いた新入生向けの情報発信などを始めた。これらの活動は来年度以降も継続していきたい。

一方で、県大や滋賀県、近隣府県の感染状況が見通せない時期が続いたことで計画通りに活動ができず、後期でも活動がほとんどできなかつた時期があった。その対策として、計画の際に定期的なオンラインでの活動を盛り込むことで、対面の活動が不可能になっても活動を続けられるようにすることは来年度の課題の一つである。また、Zoomなどを用いて地域の子どもたちに環境啓発活動を行うなど更なるオンラインツールの活用により地域の方々との交流を実施したい。対面での交流も可能であれば感染対策を講じたうえで行いたい。

外部で行われる研究発表や活動報告のイベントについても、今年度参加予定であった対面のイベントが中止になったことで参加できなかったが、来年度以降はオンライン上で開催されるイベントなどに積極的に参加し、情報交換を行っていきたい。

今後、新型コロナウイルスはますます広がっていくことが予想されるが、今年度の活動では人と人の接触を減らしつつ、いかに活動を行うべきかという今後のヒントが数多く得られた。来年度以降はそれをもとに新しい活動様式をさらに考え、実行していきたい。

## 活動を通して学んだこと

かなり身近に外来生物がいることを知った。私は今まで、外来の魚を間近で見たり触ったりしたことがなく、身近に外来の魚がいるということにあまり実感がわかなかった。活動で実際に捕獲することで、魚を詳しく観察することができ、良い体験になった。

小杉采葉（環境生態学科1回生）

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために昨年度より活動頻度が下がってしまった。予定されていた他の団体との交流会も中止となった。活動に制限がかかってしまったことは残念であったがオンラインでの勉強会で神上沼に棲む生物について学ぶことができた。

本谷匠（環境生態学科2回生）

外来種を捕獲して触れることで、知識だけでなく、生きた経験として肌で実感できた。また、在来種についてもツチフキという魚を知り、知識の幅を広げられた。外来魚情報交換会の中止など、コロナ禍で活動が制限されたことは非常に残念だったが、来年度はより活発な活動をしたい。

藤野雅也（生物資源管理学科1回生）

今年の活動は新型コロナウイルスに大きく影響された。例年では春ごろから調査やイベント等の活動を行うが、それらが一切行えず秋からのスタートとなった。普段の活動では生き物が相手という意識が強かったが、イベントが中止なり改めて多くの人たちに支えられ活動していることを認識できた。

大西太郎（生物資源管理学科3回生）

## 地域からのコメント（抜粋）

愛西土地改良区 魚住俊介さん

当土地改良区管内に広がる農村環境は様々な水環境を有しています。神上沼を含む河川、排水路、水田に至るまで、様々な魚類、水生生物が自生しており、固有種の存在を脅かす外来種も多く存在しています。

生き物観察会は、参加者が生態を知るだけでなく、地域環境を知り、地域を護るきっかけとして、最良なものと考えております。現在、コロナ禍で学習会等の開催が難しい状況となっておりますが、状況が改善しましたら、次回の当土地改良区イベント時にも、お力添えの程よろしくお願いいたします。

## 指導教員より

環境科学部 浦部美佐子

今年度は新型コロナウイルスのため活動回数が制限され、実際に子どもを集めての環境教育活動などもなかなかできなかったようですが、地道な活動をよく続けて来たと思います。現地活動には制約がありますが、逆にオンラインの利を生かしてできることをもっと考えてみてはどうでしょうか。例えば、今年は多くの学会や研究集会在オンライン開催になっていますので、そのような機会に参加や研究発表を行い、学外のいろいろな保全団体と交流や意見交換を試みるのもよいと思います。この状況はもうしばらく続くと思いますので、コロナ禍での活動内容について、一度メンバーでよく相談し、アイデアを出しあってみてはどうでしょうか。

## 新型コロナウイルス関連の対策 ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・オンラインツールの活用
- ・動画作成

## DELIVERABLE 成果物／制作物



環境教育動画  
「とある琵琶湖にて」



# 07 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPIG BEAUTY-



## 地域よし、学生よし、古民家よし

彦根市上岡部町にある古民家で、「地域よし×学生よし×家主よし」の三方よしの古民家活用プロジェクトを展開しています。古民家を地域交流の場、学生の学びの場として活用するため、改修作業、畑作り、交流イベントなど様々な活動を行っています。

### TEAM DATA

チーム名：かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPIG BEAUTY-  
代表者：藤原未羽(環境科学部)、岩佐紗歩(人間文化学部)  
メンバー数：6名  
指導教員：林宰司(環境科学部)  
活動場所：彦根市(上岡部町)  
関係団体：上岡部町自治会、ベストハウスネクスト株式会社  
近江楽座活動年度：[2004](#) [2005](#) [2006](#) [2007](#) [2008](#) [2009](#) [2010](#) [2011](#)  
[2012](#) [2013](#) [2014](#) [2015](#) [2016](#) [2017](#) [2018](#) [2019](#)

## PROJECT

## 実施事業

- (1) 古民家改修  
★見出し写真：木材塗装作業 (10/25)



竹で柵を制作 (10/25)

- (2) ひょうたん栽培
- (3) 大藪かぶらの栽培
- (4) 地域行事への参加

## 1年のまとめ・考察 (成果と課題)

今年は新型コロナウイルスの拡大を防ぐため、例年のように様々な地域の活動や、イベント事を自粛する必要があり、あまり活動を行うことができなかった。しかし、ひょうたん栽培や、改修作業など例年よりも活動量は少ないもののできることはあった。

来年も世の中がどのように変わっていくか先が見通せない状況ではあるが、そのような中でも自分たちができることをしっかり見つけていき、有意義な活動をしていけるよう頑張っていきたいと思う。

## 活動を通して学んだこと

コロナ禍であまり活動はできなかったが、ベストハウスネクスト株式会社さん協力のもと行った改修作業では、人と人の繋がりのありがたさを学んだ。工具の使い方など一から丁寧に指導をいただき、また、地域に住む方からは柵に使う竹をいただいた。コロナ禍でも活動を可能にしてくださった方々に深く感謝する。

鈴木優奈（国際コミュニケーション学科1回生）

例年通りのイベント開催や地域の方との交流を控えることとなったが、ひょうたん栽培や道普請、竹柵作成を通じ、わずかながらも地域の方との交流を継続できたのが良かったと思う。上岡部のこと、ひょうたんのこと、我々の活動を広められるよう、外部行事にも参加していければ良いと感じた。

岩佐紗歩（地域文化学科3回生）

コロナ禍で活動時期や範囲が制限されたことにより、従来通りの活動や予定していた活動ができなかった。実際に古民家に行く機会が少なくても、何かできることはないのか、もう少し話し合うべきだったと思う。ただ、古民家に新たに竹の柵を制作できたことは、今年の活動の目玉だと捉えることができる。

久木絢加（国際コミュニケーション学科2回生）

## 地域からのコメント

上岡部町自治会長 赤田薫さん

今年度は残念ながら新型コロナウイルスの影響で古民家再生計画の活動をあまりすることができなかったと聞いており、上岡部町の人が集まる行事も軒並み中止にするしかありませんでした。そんな中、古民家活用計画の皆さんには、祭りで使った後の捨てる予定だった木材を利用して古民家の竹柵を作っていただきました。新型コロナウイルスが猛威を振るっている状況ではございますが、来年度もよろしくお願いたします。

## 指導教員より

環境科学部 林宰司

今年度の事業のうち最も成果が得られたものは、壊れたまま数年間放置されていた隣家との境界の塀を竹で作り直したことだと思います。自治会にも御協力を頂いて、廃材を活用して作ることができたことは非常に良かったと思います。

今年度は主軸イベントの1つである食卓イベントは開催できず歯がゆい思いをしたことと思いますが、もう少し工夫すればコロナ禍であっても行える事業展開が可能であったと思います。例えば、ひょうたんの加工は各自、自宅で行えることでしょうし、蕪の栽培についても、予め栽培方法について調べておけば成果が得られたであろうと思います。あるいは、先輩たちの成果物である上岡部町の歴史パンフレットの活用方法を考えたり、伝統野菜についての勉強会をオンラインで開催するなど、できることは他にもあったでしょう。

ひょうたん栽培の負荷が一部のメンバーに集中する問題は毎年発生していますので、メンバー間でシフトを決めて各自が責任を持って行って下さい。一時でも世話を怠ってひょうたんが枯れてしまったら、ひょうたん関連の事業が全て行えなくなってしまうので、

来年度も人を集める・集まる事業は困難であろうと考えられますので、知恵を絞って集まらなくてもできる事業をよく検討して下さい。先輩たちの過去の成果物の引継ぎと活用が不十分だと思いますので、それらの活用を検討してみてください。

## 新型コロナウイルス関連の対策 ・新たな取組

・感染防止対策の徹底

## DELIVERABLE 成果物／制作物



竹柵

# 08 廃棄物バスターズ



## 琵琶湖を救え、廃プラを雨水タンクに

地域での清掃活動やリサイクルプランターを活用した hana-wa 活動など、環境と福祉を繋ぐ活動を行っています。また数年前から廃棄プラスチックを原料に、雨水タンクを製造する技術の研究を始め、今年度からは、マイクロプラスチック問題にも取り組んでいます。

### TEAM DATA

チーム名：	廃棄物バスターズ
代表者：	杉江太一（工学研究科）
メンバー数：	16名
指導教員：	徳満勝久（工学部）
活動場所：	彦根市、滋賀県内、県外
関係団体：	社会福祉法人いしづみ会 他
近江楽座活動年度：	2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

### PROJECT

### 実施事業

- 1) 雨水タンク作製
- 2) hana-wa 活動
- 3) 彦根市清掃活動
- 4) 南三ツ矢公園清掃活動  
★見出し写真：ごみ調査カードに回収したごみを記録（09/12）
- 5) 滋賀グリーン活動ネットワークでの活動
- 6) 彦根市立中央中学校での SDGs 授業の講師



湖岸での課外授業（11/17）

- 7) 積水化学工業株式会社多賀工場さんとの犬上川の調査および広報活動
- 8) 動画制作等による広報活動
- 9) 琵琶湖のマイクロプラスチック回収計画

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

雨水タンクについては、成形不良改善のため材料の変更を行ったが、試作継続中で最終報告までに間に合わなかった。課題の解決に向け、地道な検討と企業との連携を進めていきたい。hana-wa 活動では、プランターメンテナンスとペットボトルキャップの回収を継続して行うことができた。彦根市の清掃活動、花壇の植え替え作業は、新型コロナウイルスの影響により例年よりも参加回数は少なかったが、継続して取り組むことができた。南三ツ矢公園清掃活動では、新たに「ごみ調査カード」を導入したことで、参加者にどんな形状や種類のごみが落ちているかを実感してもらうことができた。今後も改良しながら清掃活動に活用していきたい。積水化学工業株式会社多賀工場さんとの共同の活動については、犬上川の現状調査のみに留まり合同清掃活動を実施することができなかった。しかし湖東の環境活動展に参加することで、密を避けながら広報活動を進めることができた。

また、滋賀グリーン活動ネットワークの幹事として活動する他、セミナーの企画、運営等を行った。特にゼロエミッション研究会のセミナーでは、プラスチックリサイクルに関する新たな知見を得、意識を高めることができた。広報・啓発活動については、彦根市立中央中学校で SDGs 授業の講師を務めた。中学生たちに清掃活動や砂浜の調査を通じて、マイクロプラスチック問題や琵琶湖のごみ問題を自分自身の目で経験してもらえた。他、若者に地球温暖化防止を啓発する動画の制作や当団体の活動内容を紹介する CM 出演、プラゴミ削減の取組を紹介する「ごみゼロしが」というホームページへの掲載など、コロナ禍にもかかわらず多くの媒体を通じて充実した広報活動ができた1年だった。最後に、琵琶湖のマイクロプラスチックを回収する計画について、環境科学部の丸尾先生に協力を依頼し実習船「はっさか」に乗船し、回収作業の下見を行った。来年度からはマイクロプラスチックを回収し、分析調査を進められると考えている。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

チームをまとめるには、対外的なやり取りとチーム内での調整が重要だと学びました。外部との迅速な情報共有が、協力関係を築く上で重要で責任の伴うことであるか、また小さな作業でもチーム内で役割分担することを心がけました。これにより、メンバーの活動に対する理解が深まり、積極的に意見を引き出すことができました。

杉江太一 (工学研究科材料科学専攻1回生)

廃棄物バスターズにとって『飛躍の一年』と呼ぶのに相応しい輝かしい年であったと考えています。新型コロナウイルスで課外活動が制限された中、多くの企業、団体、また個人の方々の御協力のもと、CMやテレビ放送、新聞などで活動内容や環境問題を発信することでこれまで以上の方々に周知することができました。

坂口聖明 (工学研究科材料科学専攻1回生)

コロナ禍の影響により取り組んでいた実地イベントが減った一方で、CM出演や地球温暖化防止動画の制作、中学生との清掃活動など、初めての試みを行う機会をいただけました。新しいことにチャレンジするにあたり、明確な目標設定、およびそれを実行するための入念な事前準備が重要であることを強く実感しました。

永田裕佳 (工学研究科材料科学専攻1回生)

感染症の影響で行える活動が制限されていたため、広報活動に力を入れました。活動を一般の人に紹介する際、幅広い年代の人に興味を持ってもらうためには、調査結果や専門的な言葉を端的に分かりやすく伝えることが大切であると学びました。活動全体を通してたくさんの方々のお力添えがあることを改めて実感しました。

中川巧海 (工学研究科材料科学専攻1回生)

## 地域からのコメント (抜粋)

滋賀グリーン活動ネットワーク 事務局長 辻 博子さん

2019年より滋賀グリーン活動ネットワークの幹事に、唯一学生の立場で参加いただいています。ゼロエミッション研究会のメンバーでもあり、12月には研究会主催のオンラインセミナーで、報告とパネリストも担っていただきました。60名を超える社会人参加者を前に、堂々と発表する代表の杉江くんの姿が印象的でした。プラスチックごみの削減、リサイクル推進に向けて、学生たちが積極的に熱心に取り組んでいることは、会員企業や行政職員にも好影響を与えています。

## 指導教員より (抜粋)

工学部 徳満勝久

今年度の活動は実に多岐に渡り、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながらも、その活動を地域に広げる・さらには定着させることができた年であったように思う。

びわ湖放送株式会社様と実施した「南三ツ矢公園清掃活動」や滋賀グリーン活動ネットワークでの「ゼロエミッション研究会セミナー」での講演、彦根市立中央中学校での「SDGs 授業の講師」等々、様々な活動が実施・経験できたのは、各種団体、学校様の御協力の賜だと思います。また、「積水化学工業株式会社多賀工場さんとの犬上川の調査および広報活動」では、清掃活動に止まらずマイクロプラスチックの研究に資する活動を開始し、「琵琶湖のマイクロプラスチック回収計画」を策定して、実習船「はっさか」でマイクロプラスチックを回収するなど行った。まだまだ、“学生達が自発的に”ということまでには至っていないものの、キッカケさえ与えればそれを行動に移すという“実行力”には大いに感心した年でもある。今後は、このような“地域での地道な活動”を継続して実施すると同時に、「地域分散型治水ダム」と銘打った“雨水タンク”の製造技術を確立し、それを実際に世に問うていく取組が実を結ぶことを期待しています。

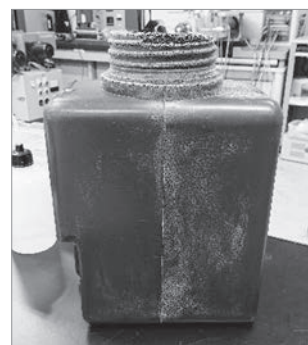
## 新型コロナウイルス関連の対策

### ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・外部団体との打合せや会議のオンライン実施

## DELIVERABLE

## 成果物 / 制作物



雨水タンク試作



活動紹介パンフレット

# 09 フラワーエネルギー「なの・わり」



## 植物でエコな活動しませんか？

化石燃料に代わり、植物を育てるところからバイオディーゼル燃料の生産を始め、資源循環型社会のモデルづくりの活動を行っています。また科学実験教室や出前授業を開催し、子どもたちに科学の楽しさやエネルギーについて知ってもらう活動をしています。

### TEAM DATA

チーム名：フラワーエネルギー「なの・わり」  
代表者：清山博規（工学研究科）  
メンバー数：21名  
指導教員：山根 浩二、河崎澄、出島一仁（工学部）  
活動場所：彦根市  
関係団体：菜の花プロジェクトネットワーク  
近江菜座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 菜の花栽培



大学内の畑で菜の花が咲く様子（03/23）



肥料まき（09/27）

### (2) 小学校出前授業

★見出し写真：草津市立渋川小学校での授業の様子（10/14）

### (3) 広報活動

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

菜の花栽培では、今年は収穫時期が少し遅れてしまい梅雨の時期とかぶってしまったため、前年ほどの収穫量にはなりません。また、今年で学外畑での活動が終了したことから、今後どのように地域の方々との関りを保っていくかを考えなければなりません。地元農家の方々とのつながりが薄くなることで、技術面での引き継ぎ方等の見直しも必要だと感じています。また、草刈り機や水道管の不具合が発生するなどしており、今後機材の点検や入れ替えを行う必要があると感じています。

小学校の出前授業は、「なの・わり」初となる、草津市の渋川小学校さんを訪ねました。授業では、ひまわりの種から油を搾り石鹸を作るという総合学習の時間をお借りして、環境・エネルギー問題について知ってもらうことができました。また、新たな取組として、ひまわりの種の搾油の体験を授業に取り入れました。小学校側からの依頼もあり実際に取り入れたところ、非常に好評であり、子どもたちだけでなく先生方からも好評価を得られました。課題としては、今年は4校に出前授業のお願いをして、1校のみの実施となってしまいました。新型コロナウイルスの影響もあるかもしれませんが、そのような状況でも実施できるような授業形式（オンライン形式など）をこちらから提案できるようにするべきだったと感じています。

また、今年度は新型コロナウイルスの影響により活動に様々な制約がかかり、その結果メンバーが活動に参加する機会が減ってしまいました。来年度もオンラインを基本とした活動となることが予想されるため、その状況で多くのメンバーが活動に参加できるように新しい工夫をしていかなければならないと考えています。

## 活動を通して学んだこと

地域の方々と交流することで、農作業のことなど今まで自分が知らなかった知識をたくさん得ることができた。草むしりを何回もしないといけなくて大変だったけど、ちゃんと菜の花が育って油が作れたのでよかった。

末富純也（機械システム工学科4回生）

エネルギー資源を得ることの大変さについて学ぶことができた。農作物のエネルギーを取り出すには、農業の知識から燃料に関する知識など多くの知恵や技術が必要であり、それらによって得られるエネルギーは小さいものであることを体感した。この体験から、エネルギーの大切さをより多くの人に知って貰いたいと感じた。

山口紋暉（機械システム工学科4回生）

作物を育てることの大変さを学んだ。草むしりや肥料まきはしんどかったが、その分、菜の花が無事に育ってくれたときの喜びは大きかった。また、出前授業で子どもたちに自分たちの活動に興味を持ってもらえたことが嬉しかった。

村瀬友規（機械システム工学科4回生）

## 地域からのコメント

お借りしている畑の所有者 吉島利博さん

なわり学外畑は、三津町の開発予定地の一部で、ただ農業関係以外での利用は認められませんので、彦根市役所に相談したところ、2004年頃、県立大学環境科学部の松岡先生の紹介を受け、とりあえず菜種を栽培しその油の廃油でバイオディーゼル燃料の研究をするという事で、関係学生の皆さんと地元関係者が協力して作付けする事となりました。その後ひまわりの花と菜種と交互に栽培することになり季節ごとの花盛りは人気スポットでした。

我々は収穫作業を学生の皆さんとするのが楽しみでした。しかし、我々も高齢になり、また大学側より遠方であることで終了する旨の連絡を受け、少し寂しい思いです。学生さんたちに出入りしていただけることで、町内が明るく活気につながりまた、作付けする事で、景観も良く残念な思いもありますが、致し方ありません。今日迄本当にご苦労様でした。

## 指導教員より

（抜粋）

工学部 山根浩二

今年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、その影響もあったことと思います。とくに、小学校への出前授業に関しては、開催できるのが少なかったと思います。その中で、草津市立渋川小学校からの依頼はSDGsの実践を目指したもので、「なの・わり」の趣旨とも合致し、やりがいがあったのではないかと思います。来年度以降は、オンラインでのリモート出前授業など、工夫を凝らした内容を考えてみてはどうでしょうか。

一方、地元の耕作放棄地を借りた菜の花栽培については、地元の方の高齢化のため協力が困難となったことから、今年度で終了とのことで大変残念です。これに替わる「地域との絆」の仕掛けを来年度は考えていただきたいと思います。

## 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・屋内にて行われる活動についての規則や制限の設定
- ・交流する相手方への注意喚起、全員の意識共有
- ・ミーティングは原則オンライン

DELIVERABLE

成果物／制作物



なたね油

# 10 座・沖島



## 沖島でまなぶ・まじわる・ささえる

日本で唯一、湖に人が暮らす島、沖島。島民は漁業を生業に琵琶湖と共に暮らしてきましたが、過疎化などにより、暮らしの継承が危ぶまれます。このような沖島の状況に、「まなぶ」「まじわる」「ささえる」の3つを目標に島の振興のため活動しています。

### TEAM DATA

チーム名：座・沖島  
代表者：西陽来（環境科学部）  
メンバー数：16名  
指導教員：上田洋平（地域共生センター）  
活動場所：学内、沖島（近江八幡市沖島町）  
関係団体：沖島町離島振興推進協議会、沖島自治会  
近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

### PROJECT

### 実施事業

- (1) 沖島新歓  
★見出し写真：沖島散策（11/01）
- (2) 畑整備



起耕作業（02/16）

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）

本プロジェクトは発足してから5年目であり、4月～10月の間、今年度は新型コロナウイルスの影響により、活動ができなかった。しかし、近江楽座の合同説明会を通して10人ほどの新入生を座・沖島に勧誘にすることができた。新入生には、新型コロナウイルスが落ち着いた期間に一度沖島に行ってもらい沖島のことを紹介することができた。また、今年度一番力を注いだのは沖島の空地を使って農作業を行うというプロジェクトである。農作業を通して、少しでも島の人たちと交流し、信頼関係を築くことができたと思う。来年度は新型コロナウイルスの影響を考えつつ、できる限りの活動をしていきたいと思う。

本プロジェクトは島民との関わり無くしては成り立たない。メンバーがより沖島に溶け込み、島民と共に沖島の存続のために最善の道を模索できるようなチームを作っていきたい。

## 活動を通して学んだこと

今年度は新型コロナウイルスの影響で、活動のほとんどができませんでしたが、農作業を通して町の人と少しずつ活動を再開していただけたらと思いました。

宮崎啓太（環境生態学科2回生）

今年度は、新型コロナウイルスにより十分な活動ができませんでしたが、畑整備が一段落ついたので、良かったです。新型コロナウイルスによって、改めて人と人の関わりの重要性を学びました。このような活動ができることは、当たり前だとは思わず頑張っていきたいです。

西陽来（環境生態学科3回生）

座・沖島での活動も3年目を迎え、徐々に島の方との関係も深まってきた矢先、コロナ禍という事態で、今年度は思うように事業や行事の手伝い行う事ができませんでした。しかしながら、半年間活動できなかった分、島民の方と接すると、より人の温かみを感じることができ、以前と変わらない人の心に触れることができました。今年度は、新たに農作業に取り組んでいます。さまざまな事が制限される中、人と人の繋がりを大事にし、新たな事業に取り組んでいきたいです。

今井優斗（地域文化学科3回生）

## 地域からのコメント

沖島町離島振興推進協議会 富田雅美さん

島内清掃や畑の開墾などのボランティア活動を自主的に行い、また過疎化が進む沖島の行事などを若い力で盛り上げていただいております。また、今年度は、畑の開墾にも携わっていただき、ありがたい限りです。

## 指導教員より

地域共生センター 上田洋平

未来に種まく「開墾」の始まり

予期しないコロナ禍で住民の大半が高齢者である沖島への外部からの渡航は困難になった。コロナ禍によって地域が直面する課題が改めて浮き彫りになり、こんな時にこそ、と思うけれども活動制限がかかり、たいへん歯がゆい思いをしたことと思う。そんな中でも地域の理解のもと年度後半から始まった「開墾作業」。これまでの活動が、地域で以前から行われてきて今も地域にあるものごとつまり「現状」を「支える」性格のものが多かったのに対して、沖島の「未来」に「種まく」性格のものであり、県や市とも連携した今後の展開に大いに期待する。島にかかわり島に育てていただいた卒業生の多くが、その経験やそこで生まれたつながりを生かして活躍している。その姿を励みに、いずれ来る新型コロナウイルス終息の時に向けて、気持ちを耕しておいてください。

## 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・滞在時間を短くする
- ・密閉した空間には行かない、つぐらない



# 11 政所茶レン茶<sup>®</sup>



## 政所茶を通じて楽しく地域活性化！！

滋賀県東近江市政所町において茶畑を借り、学生が自分たちでお茶を生産し、販売することで、地元の方と協力しながら地域を盛り上げるべく、楽しく活動しています。政所や奥永源寺地域で魅力を発見し発信しています。

### TEAM DATA

チーム名:	政所茶レン茶 <sup>®</sup>
代表者:	大原悠人(人間文化学部)
メンバー数:	32名
指導教員:	上田洋平(地域共生センター)
活動場所:	滋賀県東近江市政所町
関係団体:	政所茶縁の会
近江茶座活動年度:	2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

- お茶の生産  
★見出し写真：ススキ刈り (11/14)
- お茶の販売



ブルーメの丘での販売 (11/22)



販売の様子 (12/26)

- 「お茶の飲み比べ」参加
- 「お茶の勉強会」開催

## 1年のまとめ・考察(成果と課題)

今年度は新型コロナウイルスの影響で、活動する機会が大幅に減少してしまった。この状況の中で、なかなか集まって作業することができず、作業が遅れてしまうことがあった。また、毎年行っている茶レン茶<sup>®</sup>一園の所有者である白木駒治さんのお手伝いや年末の交流イベントなどもできず、地域の皆さんとの交流する機会がほとんど持てなかった。

販売においては参加を予定していたイベントが軒並み中止になる中で何とかお茶を皆さんにお届けできないかと考え、前々からしたいという意見が多くあったインターネット通販を満を持して開始することにした。Facebookなどで政所茶や茶レン茶<sup>®</sup>の活動を知ったという方に多くご購入いただいた。今までは、対面での販売のみだったこともあり遠方のお客さんにお茶をお届けすることが難しかったが、通販を始めたことで県内外の多くの地域の方に政所茶を味わっていただくことができるようになった。そんな中で、昨年のイナズマロックフェスで一緒にしたブルーメの丘からお誘いいただき、ブルーメの丘でお茶を販売することができた。これは、茶レン茶<sup>®</sup>として政所の知名度向上や魅力発信に寄与することができ、自分たちの活動を政所地域に還元できたと思う。

また、今年はお茶の勉強会に参加することもあり、改めて政所茶をほかの産地のお茶と比較することで今まで気づけなかった特徴を知ることができた。さらに昨年同様、政所茶を題材にした動画をいくつか制作することができた。動画の制作に当たり、YouTubeのチャンネルを開設したので今後も有効に活用していきたいと考えている。来年度も新型コロナウイルスの影響で今までほど多くのイベントに参加できないことが考えられるので、対面で十分な発信ができない分、動画などを通して映像作品ならではの発信も進めていきたいと考えている。

## 活動を通して学んだこと

1年の活動を通して、コロナ禍という空前絶後の状況の中でどのようにして活動を続けていくか悩みました。なかなか自由に販売に行くことができない状況の中で、どのようにして自分たちの商品を売っていくかたくさんの方のアイデアを出しました。今年1年努力して生み出したものは、これからも先も生きるものだと感じます。

森井由希（地域文化学科2回生）

今年度は、新型コロナウイルスの影響でお茶づくりや魅力発信以前に、茶レン茶<sup>®</sup>一<sup>®</sup>の組織内でのコミュニケーションや情報共有が満足にできず力不足を感じました。今後、どのように組織内でのモチベーションを維持していくかを考えていかなければならないと感じました。

角井優斗（環境政策・計画学科3回生）

今年は例年通りの活動ができず、苦しい場面が多かったように感じます。特にイベント販売や地域の方との交流の機会が大きく損失したのは残念でなりません。ただ、そのような制限のおかげで新しい試みに挑戦する良い機会となったことはある意味メリットでもあったのかなと思います。

大原悠人（地域文化学科3回生）

## 地域からのコメント

政所町住人 清水美紀子さん

今年は新型コロナウイルスの流行で活動が制限される中、時間を作って畑に通ってくれてうれしく思っています。少ない人数での作業になり、その分負担も大きかったと思いますが、頑張ってくれたと思います。イベントや販売がなくなったので、その分お茶づくりに集中できたかな。それだと嬉しいです。コロナ禍で政所茶をPRする機会が減ってしまったと思います。それは私たちも同じです。だからこそ来年は生産者同士一丸となって頑張っていきましょう。

## 指導教員より

地域共生センター 上田洋平

人間界はコロナ禍であっても政所では一日一日茶が育つ。幸いにして今年度も無事にお茶を摘み、お茶を売ることができた。この間、高齢の方も多い山間の集落でヨソモノ・ワカモノに眉を顰めるといってもなく、むしろねぎらいの声すらかけてもらえたのは、それが「適疎」な環境下での作業であったことや、もちろん地域の人々元来の寛容さのためだが、メンバー諸君のつつしみ深い行動と、これまでに地域の方々と積み重ねた日々あったことでもあると思う。危機の時にこそ日ごろの信頼が生きる。新聞紙上でたまに目にする「ニュース」ではなく、ふらりと入った小洒落たカフェで思いがけず政所茶の名前やそれを使った商品、お茶そのものと出会うことがある、というその「日常」をともに生み出してきた皆さんの歩みをよろこびたい。ところで、この機会に取り組んだEコマースへの「茶レンジ」はその実績やいかに？

## 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・人の集まる時間帯を避けての活動  
早朝でもできる作業は朝4時半集合などにより午前中で終わらせた。
- ・公共交通機関をできる限り利用しない  
主に自家用車で移動することにより、不特定多数の人間と接触するのを避けた。
- ・県外からの参加者の制限  
感染が拡大している地域からの参加者を減らし、県をまたぐ移動をなくした。

## DELIVERABLE

成果物／制作物



お茶

# 12 とよさらだプロジェクト



## ひとりいこうぜ！（野菜）

豊郷町の耕作放棄地をお借りし、地域の方にアドバイスをいただきながら野菜づくりを行っています。栽培した野菜で直販所、大学生協への販売、イベント出店を行い、地産地消の促進をめざしています。

### TEAM DATA

チーム名：とよさらだプロジェクト  
代表者：野崎正興（人間文化学部）  
メンバー数：18名  
指導教員：畑直樹（環境科学部）  
活動場所：滋賀県犬上郡豊郷町  
関係団体：豊郷町役場

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 豊郷町での野菜作り

★見出し写真：タマネギの定植（11/15）



みかんの定植（09/20）



野焼き（11/01）

### (2) 農機具の修理

### (3) クラブ紹介・近江楽座説明会での活動紹介ブースの出演

### (4) 多賀町でのゴボウ掘りのお手伝い

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

4月から7月までの間、畑での活動を当番制にして、1人で行う作業に限定して行ったため草刈りなどの畑の整備が行き届かず、雑草が生い茂ってしまうことがあった。また、作業に参加していないメンバーが畑の状況を把握できない等の新たな課題も現れた。そこで、作業の内容をSNSで報告、写真を共有し、次の当番のメンバーに引き継ぎを行うことで、全員が畑の状況を把握できるようにした。8月以降は段階的に複数人での活動を開始し、クラブ紹介などにも参加したことで新メンバーを獲得できた。

9月から新メンバーの一回生が積極的に活動に参加してくれたため、畑作業の参加人数が前年度に比べ増加した。前年度は2~3人で、メンバーも固定化されている事が課題であったが、今年度は5人以上参加することが多く、作業効率が向上した。これにより、畑の整備が進み、前年度よりも畑を広く使い、野菜を栽培することができた。収穫した野菜はメンバーが持ち帰り、余った分を少量ではあるが直売所で販売した。微力ではあるが野菜の地産地消に貢献でき、改めてプロジェクトの活動目的を確認することができた。

活動メンバーは、プロジェクトに参加するまで農業の経験がほとんど無かった学生であるため、野菜作りに際して分からないことも多く、地元の農家の方に助けをもらうことが多い。農家の方に教わったことを全体で共有し、私達自身も野菜栽培について学ぶことで、栽培技術を向上させることが今後の課題である。今年度は新型コロナウイルスの影響で地域の方との交流の機会も例年に比べ減少してしまった。また、新入生歓迎会なども行えなかったことや、新型コロナウイルス感染拡大対策を実施しながらの活動であったことからメンバー間の交流の機会も減少してしまった。来年度は、時々の状況に応じて、可能であればイベントへの参加や、メンバー間の交流の機会を設けていきたい。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

学んだことは、野菜を育てることの大変さと楽しさです。雑草が畑に沢山生えてくるので、除草作業は大変だったし、野菜が思うように育ってないことがあったけれど、野菜を収穫する時はとても嬉しかったです。地域の方からは野菜の育て方を、先輩に耕運機の使い方を教えてもらい、農作業をするのがとても楽しかったです。

今井希 (環境生態学科1回生)

土を触ること、大地に触れることが何よりも活力になる。晴天の下での作業はエネルギーを与えてくれる。農業の経験はなかったが、農家の方や先輩方の指導により農業を純粋に楽しめた。最低限の水と肥料を与えれば野菜は育つが、より美味しい野菜を作るにはどうしたら良いかを追求することに意味があると思う。

若山莉也 (人間関係学科1回生)

私が活動を通して学んだことは野菜の育て方です。今まで畑を使って野菜を育てたことがなかったため、畝づくりなど初めてのことで楽しかったです。新型コロナウイルスの影響でとよさらだで活動した時間はまだ短いけれど、先輩方からたくさんのことを教えて貰うことができました。

尾崎礼奈 (環境政策・計画学科1回生)

活動を通して地域の人々と交流する楽しさを実感しました。これまでの普段の生活では、地域住民との関りはあいさつ程度でした。しかし、とよさらだでは地域の農家さんに野菜作りを教えてもらうという、一歩踏み込んだ形で関ることができるとも良い経験になると感じました。

鈴木悠次郎 (環境政策・計画学科2回生)

## 地域からのコメント

豊郷町農家 市田豊さん

今年は、去年よりも活動の参加人数が増えているようで、良かったです。大学生が農業に興味を持ってくれてうれしい。若い世代に農業を広げるように頑張ってください。水やりなどを平日などにもまめに行う等の工夫も必要だと思う。

## 指導教員より

環境科学部 畑直樹

今年度の栽培方法や収穫量を詳しく記録し、来年度以降の参考資料として活用できるようにしてください。毎年継続的に栽培する作物を選定して、「とよさらだプロジェクト」の栽培技術を向上させることで、収穫物の生産性がさらに高められるようにできるとよいと思います。ビニルハウスであれば、Webカメラを設置して遠隔でも監視できるようにするのもよいですね。

## 新型コロナウイルス関連の対策 ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・4月～7月  
畑作業を一人に限定(公共交通機関を利用しないで参加できるメンバー)  
作業内容をSNSで共有
- ・8月以降  
複数人での活動を再開
- ・オンラインでのミーティング

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



野菜

(ジャガイモ、トマト、ナス、ピーマン、スイカ、ダイコン、ミズナ、タマネギ)

# 13 おとくらプロジェクト



## 高宮に「新しい風」をおこす！！

彦根市高宮町で、築200年の古民家を学生が改修してできたコミュニティスペース「ギャラリー喫茶おとくら」の運営を軸とし、地域活動への参加、イベントなどを行い、地域をより元気にすることを目的に活動しています。

### TEAM DATA

チーム名：おとくらプロジェクト  
代表者：後藤千尋、嶋田彩花（人間文化学部）  
メンバー数：52名  
指導教員：迫田正美（環境科学部）  
活動場所：彦根市（高宮町）  
関係団体：高宮連合自治会  
近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 喫茶活動

★見出し写真：メニュー考案会（12/20）



おとくら体験会（10/18）

### (2) イベント活動

### (3) ギャラリー運営

### (4) 広報活動



オンライン引継ぎ会（01/16）

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は、1回生が27名入り、賑やかになり、高宮地域を支えるメンバーが増えたことが非常に大きな変化と言える。その一方で、コロナ禍という状況にあり、思うようにいかない苦難に見舞われた年であった。課題として大きく2つのことが挙げられる。

1つ目は、昨年度課題として述べられていた「交代でメンバーが座ギャラリーに滞在する制度」について、今現在十分に成果が得られていない。座ギャラリーに関して、チラシの作成に関わってはいるものの、作成したチラシがどのようにして、誰のもとへ渡っていくのかを把握している者は少ない。メンバー内で座ギャラリーについての知識を深めていくこと、そしてメンバー自身が座ギャラリーに積極的に足を運ぶことが必要であると感じる。

2つ目は、コロナ禍の影響で高宮町の方との交流が激減してしまっただけである。高宮町、中山道を盛り上げるために自分たちが企画、運営する新たなイベントを行うことができなかつたり、昨年まで引き継いで行われてきたギターワークショップやおとくら寄席が実施できなかつたり、昨年からつながりを得ることができた高宮小学校の児童と関わる機会が失われてしまつたりと、様々な課題が残る。コロナ禍である以上、これまでのような活動を行うのは困難な状況ではあるが、今後は継続して行われてきたこれらのイベントの引き継ぎを丁寧に行っていくとともに、コロナ禍以前に行われていた各班での活動について全メンバーが把握し、コロナ禍が落ち着いた際に円滑に実施できるような状態を作っておくことが重要であると考え。そして、今年度を準備期間、振り返り期間として位置付け、課題を踏まえて来年度の活動へ生かしていく必要があると感じる。

最後に、おとくらプロジェクトは、多くの方に支えられて継続し、現在も成り立っている。今後も高宮地域の方と積極的に交流し、高宮地域の活性化を目指し、様々な面で貢献していきたい。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

地域とのつながりの偉大さを学んだ。学生の働きかけで地域の問題に対する解決の糸口が見つかり、コミュニケーションを取ることによって地域と関わりが持てる。地域の方が学生の活動をサポートしてくださることで活動がより濃いものとなる。学生と地域のつながりは相乗効果で相互にイノベーションを生み出すということ学んだ。

赤尾知哉 (環境建築デザイン学科 1 年生)

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により昨年度のような活動ができませんでした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大予防を行いながら、どのようにすれば高宮地域に貢献できるか考え、メンバーと協力しながら、工夫して活動を行ったので、とても良い経験になりました。

石田一成 (環境生態学科 2 年生)

コロナ禍で先輩や同級生ともあまり交流できない中、おとくらの活動はとても大切なものでした。そして、活動ではコミュニケーションの大切さや工夫しながらできる範囲内でも活動し続ける意義を学ぶ事ができました。おとくらで学んだことを来年の活動やおとくら以外での活動にも生かしていきたい。

古田愛佳 (環境建築デザイン学科 1 年生)

様々な学科から構成されるメンバー同士での話し合いを通して、多様な価値観、考え方に触れることができた。困難な状況の中、創意工夫を重ねて地域に貢献していくことは大きな経験となった。今後も、おとくらプロジェクトを通して感じたつながりの大切さを感じながら、様々な人々と交流し、多くのことを学び、経験していきたい。

坂袖月 (生活栄養学科 2 年生)

## 地域からのコメント

おとくら家主・おとくら応援隊長 加藤義朗さん

本当にかわいそうな一年でした。コロナのバカやろうです。昨年1月11代目千尋ちゃん、彩花ちゃん号は始動。コロナと共に予定していたコンサート、落語会の中止から始まり、そして休業へと。そんなコロナ禍でも高宮の為とリモート等で連絡を取りあっていっぱいチャレンジしてくれました。

うれしい事に新入生(一回生)が20数名とか。楽座で一大勢力へと、いい子でいっぱいです。ギャラリーのみ、喫茶休業中は、メニュー指導、レベルアップしていつでもスタンバイOKです。

今年1月12代目ばんちゃん、一成くん号始動のはずが、大学の課外活動中止によりギャラリーもできなくなり大変な門出となりました。でも心配はしていません。若い力と継続してきた力。おとくら12年目は、安心です。

家主として嬉しかった事、いっぱい有り過ぎて。4代目のメンバー、有さん、希恵ちゃんが5年ぶり、また4回生が進路報告で来店。おとくらでコーヒーを喜ぶ姿、おとくら応募隊やってよかった、実感です。いつまでも、おっちゃん達仲間に入れてね。

## 指導教員より

環境科学部 迫田正美

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策への対応が大きな課題であった。特に喫茶・ギャラリー運営・イベント活動を主体とする「おとくら」にとっては、年度当初から活動が制限される中でどのような活動ができるのか対応を考えつつ実践することが求められたが、それぞれの班で話し合いながら様々な提案が生まれたことは良い経験となったと思う。

そのような中で新入生が多く参加してくれたことは嬉しいことであり、従来の活動を一緒に体験できなかった学生たちにどのようにこれまでの活動を引き継ぎ、またウィズ・コロナの時代における新たな活動のあり方を創出して行ってくれるのか楽しみでもある。

今年度の苦しかった経験を是非将来の活動に繋げてほしい。

## 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・活動参加者の制限(2~4人体制での活動)
- ・店内のアルコール消毒(活動前後)
- ・プラスチックパーテーションの設置
- ・人数制限による体験・見学(1回3人まで)

## DELIVERABLE

## 成果物/制作物



おとくら通信

<その他成果物>

おさんぼ座ギャラリーチラシ  
「祈りにも似た世界」  
「破天荒を研ぎ澄ます」

# 14 Taga-Town-Project



## 多賀の魅力を発見！発信！

学生目線の発想で多賀町の魅力を発見し、町内外に発信する団体です。多賀の魅力を生かしたイベントを開催したり、地域のイベントに参加・協力したり、ホームページや SNS で多賀の情報を発信したりと活動は多岐に渡っています。

### TEAM DATA

チーム名：Taga-Town-Project  
代表者：宮野明日香（人間文化学部）  
メンバー数：5名  
指導教員：迫田正美（環境科学部）  
活動場所：滋賀県犬上郡多賀町  
関係団体：YOBISHI、多賀町立文化財センター 他  
近江築座活動年度：[2004](#) [2005](#) [2006](#) [2007](#) [2008](#) [2009](#) [2010](#) [2011](#)  
[2012](#) [2013](#) [2014](#) [2015](#) [2016](#) [2017](#) [2018](#) [2019](#)

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 字巡り



河内地区の散策（10/18）

### (2) お手伝い/YOBISHI



胡宮神社ライトアップイベント（11/22）

### (3) お手伝い/桃園プロジェクト

★見出し写真：草木染め体験（09/20）

### (4) 滋賀人ミーティング

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は、継続事業としては YOBISHI お手伝い、新たな事業としては字巡りを行った。新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中ではあったが、新たな事業に挑戦し、成果を上げることができた。またその一方解決すべき課題も多く見付き、全体的に実りの多い年度であった。

また今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りの活動ができなかったことで、自分たちの活動を改めて振り返るきっかけとなった。多賀町の課題へ TTP が本当にアプローチできているのか、そもそも多賀町の課題とは何か、TTP がやるべきこと、やれること、やりたいことは何か、など TTP の現状と今後の活動についてメンバー間で話し合い、時には外部の地域活動をしている方々に助言をいただきながら模索してきた。今年度はその成果を活動に昇華することはできなかったが、来年度は新たな事業として確立させたいと考えている。

今年度の活動を振り返って浮き彫りになった課題の一つはミーティングの回数が少なかった事である。ミーティングは当初は週1回を予定していたが、実際行ったのはイベントや外部の方とのミーティングの前や、話し合うべき議題ができたときのみで定期的なミーティングを継続して行うことができなかった。そのため今後のスケジュールや現在進めている事業の進捗を確認することができず、結果的にメンバー間の情報共有の不足、事業や提出物の遅れを招いた。今後はスケジュール管理の担当を決め、担当がプロジェクト全体のスケジュールを把握・管理することでこの課題を解決する。

また SNS やホームページの更新が少ないことも課題である。活動自体が少なかったこと、具体的にどのような情報をアップするか TTP 内で明確になっていないことなどから、更新頻度が月に数回程度にとどまった。発信を活動の軸として掲げているプロジェクトとしてこの点は改善が必要である。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

地域活動を継続する難しさを学んだ。コロナ禍の下、自分たち2回生が活動の主体となったことで、学業の傍ら地域活動に積極的に参加したり、メンバーと連絡を密に取ったりすることの難しさを痛感した。地域活動を継続するためにはその点において自分たちなりの工夫が必要であると感じた。

小林すみれ (地域文化学科2回生)

昨年度は活動が大幅に制限されてしまったが、外部の方とお話、協力させていただく機会が多くあった。多賀町の魅力を発信するにあたって、字巡りのように地域に足を運ぶことももちろん重要だが、実際に地域の人にとってコミュニケーションを取ることが大事だと活動を通して学ぶことができた。

宮野明日香 (人間関係学科2回生)

コロナ禍ならではの取組として字巡りを企画したが、活動期間が短く実施できたのは2回のみになってしまった。ただ、オンラインでミーティングを重ねることで、少ない人数でも無理なく続けられる活動はどんなものか意見を出しあうことができた。本当に自分たちが多賀でしてみたいこと、できることは何か考える期間となった。

久木絢加 (国際コミュニケーション学科2回生)

## 地域からのコメント

桃原プロジェクト代表 中川信子さん

多賀町の桃原地区で活動をしています。桃原は昔スキー場としてにぎわい、桃原で採れるごぼうは京都のお正月に欠かせない食材として江戸時代から名が知られていました。しかしながら現在は過疎化が進み、住人が一人だけという状況になっています。昔にぎわった集落を次の時代につないでいけるように、桃原ごぼうの復活に取り組み、桃原ににぎわいを取り戻したいと願っています。そんな活動をTTPのみなさんといっしょに進めていけることは大変心強くうれしく思っています。

9月に開催した「コブナグサで桃原イエローを染めよう」という草木染の体験では子どもたちとの楽しい時間を盛り上げていただきました。自然の中で走り回る子どもたちの安全を確保し、やさしく見守っているTTPのみなさんのまなざしは温かく、みんなが安心して過ごすことができました。11月のごぼう収穫祭では集落内散策を企画、案内するなど積極的に取り組んでいただけてうれしかったです。

自然に恵まれ、歴史もある桃原の魅力をこれからもTTPのみなさんといっしょに発信し、多くの人たちに桃原のことを知っていただきたいと思います。

## 指導教員より

環境科学部 迫田正美

今年度は年度当初から新型コロナウイルス感染対策のために大きな制約がある中での活動となった。前期は緊急事態宣言の発令とともに大学全体が遠隔授業となり、夏には第二波、年末から新年にかけては二度目の緊急事態宣言の中で、感染対策を図りながら如何にして、またどのような活動が可能なのか手探りの中での活動となったが、その中でもメンバー同士の話し合いの中で様々な検討を重ねて活動を継続できたことは大きな経験となったと思う。

そのような状況の中でTTPが得意とする情報発信の方法や内容を工夫し、コロナの時代の新たな活動に繋げていくことも良い課題ではないかと考える。今年度の経験を生かして新たな活動の発展を期待している。

## 新型コロナウイルス関連の対策 ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・字めぐり (メンバーのみで実施)
- ・SNSによる情報発信
- ・オンラインミーティング

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



桃原プロジェクト 草木染め体験チラシ



字巡り新聞 河内編

<その他成果物>

桃原字巡り ワークショップ用リーフレット



# 15 地域博物館プロジェクト



## 文化財を守る学生学芸員

民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財があります。“地域文化財”や地域の歴史・文化などを住民の方々とともに調べ、活用し“地域博物館”をつくりあげていくことで、地域の魅力を再発見することをお手伝いします。

### TEAM DATA

チーム名：スチューデント・キュレーターズ  
代表者：大田芽依(人間文化学部)  
メンバー数：27名  
指導教員：市川秀之、東幸代(人間文化学部)  
活動場所：学内、米原市、高島市、近江八幡市  
関係団体：白谷荘歴史民俗博物館  
近江楽座活動年度：[2004](#) [2005](#) [2006](#) [2007](#) [2008](#) [2009](#) [2010](#) [2011](#)  
[2012](#) [2013](#) [2014](#) [2015](#) [2016](#) [2017](#) [2018](#) [2019](#)

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 西川嘉右衛門家調査



文書の解読 (09/19)

### (2) 白谷荘歴史民俗博物館調査・展示事業

### (3) 米原展示計画

★見出し写真：調査の様子 (09/19)



模型製作 (11/06)

## 1年のまとめ・考察(成果と課題)

今年度は新型コロナウイルスの影響により、例年のような活動を思うように行うことはできなかった。ビバシティで行われていた博物館夏祭りも中止になってしまい、湖風祭もオンラインでの開催になり、対応することができず、参加をすることができなかった。調査は感染対策をしっかりと行いながら活動を行った。高島市の白谷荘と近江八幡市にある西川家では昨年度に引き続き文書の整理や解読を行ったが、今年度からは米原市内旧東草野小中学校で、展示計画を進める活動が始まった。主に展示室の設計図と東草野の山村景観の模型作りを進めた。設計図を作成する班と模型を作る班に分かれて作業を行った。初めての挑戦で分からないことが多かったが、相談し合って進めることができた。

一方、課題であると感じた部分は情報共有が足りていないところである。来年度は進捗状況をこまめに共有していきたいと思う。米原市内の休校になった校舎を利用した資料館は2022年の4月にオープンする予定であるので、そこに向けてこれからも作業を進めていきたい。

## 活動を通して学んだこと

今年度、特に葦間屋である西川家の古文書の解読に参加しました。解読した古文書からは当時の暮らしの様子や葦の流通先を知ることができ、私たちの知る歴史の情報はこうした地道な作業によって保管・整理され、明らかになっていくのだと学びました。

田代秋華（環境生態学科2回生）

今年の活動では会計をやらせていただきました。新型コロナウイルスの影響で、3ヶ月程しか活動できませんでしたが、会計の仕事は他の人の活動に関わってくる重要な役割でしたので、とてもやりがいがあったと思います。大変な面もありましたが、このプロジェクトの一員として活動できたのは良かったと思います。

長野緋音（生物資源管理学科3回生）

廃校になった小学校の旧校舎に展示スペースをつくるというプロジェクトで、展示品を選びどこに配置するのかなど、一から展示をつくる経験をさせていただいています。またその参考に他の博物館を見学することで展示方法に注目した博物館観覧の視点が養えたのではないかと考えています。

向井悠里子（地域文化学科2回生）

白谷調査では、主に調書を取り終わった教科書を整理しました。調書の情報と合わなかったり、教科書以外を分別したりといった作業で資料を管理する上できちんと調書を取る必要性を感じました。また展示用に景観模型を作成しているのですが、試行錯誤を重ね、模型を作ることの難しさを学びました。

山本千尋（地域文化学科3回生）

## 地域からのコメント

白谷荘歴史民俗博物館館長 川島光男さん

新型コロナウイルスで学生活動も大変な時期です。今年度は、計画的に活動が進んでいないでしょうが、白谷荘歴史民俗博物館の調査・整理・維持・保存に貴重な休日の時間に携わっていただき、感謝します。最近は地方の伝統的な行事ごとが中止になったり、集まりごとはオンライン化されて急速に伝統文化の継承や保存が失われていくように感じます。同時に若い人の関心も無くなってきています。この活動は、現地に出向いて貴重な資料やそこで活動している地域の人に触れ合うことができ、非常に貴重で有意義な時間を過ごすことができます。地域の活性化、観光事業の推進にもつながります。また、皆様が社会人になられたときに必ず役立つものです。当館は皆様のおかげで整理が進んでいます。少しずつ少しずつ皆様とともに資料の維持・保存・文化資料情報の発信、地域の活性化と前へ進めていきます。

## 指導教員より

人間文化学部 市川秀之

2020年度はコロナ禍もあって十分な活動ができない一年であった。ことに例年事務局を担当している博物館夏祭りについては中止となったのは非常に残念であった。また新たなメンバーの加入も、勧誘の機会が少なくうまくいかなかった。そのような中で、後期からは白谷や近江八幡での調査を継続し、また米原市東草野の新しい博物館作りにも参画することができたのは大きな成果であった。これらの活動は大学外の人々とのつながりがあって初めて可能となるものであり、コロナ禍のなかでもそのつながりを継続していったのは今後につながるものであろう。

## 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

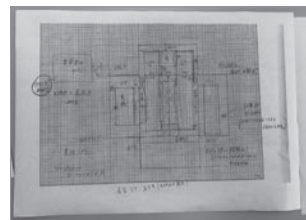
・感染防止対策の徹底

## DELIVERABLE

## 成果物／制作物



米原での展示用模型



米原での展示計画書

<その他成果物>

西川家の倉の修理

# 16 田の浦ファンクラブ学生サポートチーム



## 人の温もりに触れられる場所、田の浦

東日本大震災で津波の被害を受けた宮城県南三陸町田の浦地区で、復興まちづくり活動を行っています。現地での交流イベントの企画・運営を行うとともに、活動で得た繋がりや経験を滋賀県内に広めるためにイベントの広報を行っています。

### TEAM DATA

チーム名：田の浦ファンクラブ学生サポートチーム  
代表者：飯原秀哉（環境科学部）  
メンバー数：18名  
指導教員：鶴飼修（地域共生センター）  
活動場所：学内、宮城県南三陸町歌津地区田の浦  
関係団体：NPO 法人田の浦ファンクラブ 他

近江楽座活動年度：(2004) (2005) (2006) (2007) (2008) (2009) (2010) (2011)  
(2012) (2013) (2014) (2015) (2016) (2017) (2018) (2019)

## PROJECT

## 実施事業

- (1) 3.11 キャンドルイベント in 田の浦  
★見出し写真：イベント配信の様子 (03/11)

- (2) 11月訪問



田の浦地区を訪問 (11/08)

- (3) お便り送付

- (4) 滋賀県立大学での湖風祭実行委員会主催の部活動イベントへの参加



イベントブースの様子 (08/27)

- (5) DVD 作成 (ズンドコ節体操)

- (6) Taga-Town-Project 主催のイベントに参加

## 1年のまとめ・考察 (成果と課題)

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度まで行っていた定期訪問が十分にできず、おちゃっこ会や海の大運動会などの田の浦での活動がほとんどできなくなってしまった。前期は大学の授業が遠隔となり、メンバーが集まってミーティングすることもできなかったため、特に何も活動できない日が多かった。だが、後期から対面授業が始まり、「ズンドコ節体操動画のDVD作成」や「3.11 キャンドルイベント in 田の浦」など訪問ができなくても田の浦のみなさんとのつながりを意識できるような活動を中心に行った。また、滋賀での活動にも力を入れ、Taga-Town-Project の主催するイベントに参加させていただくなどの活動を行った。直接集まることができなくても、Zoom を用いてミーティングを行うなど試行錯誤しながら、話し合いの機会を増やせるように努力した。今年度気づいたことは定期訪問の重要性である。田の浦へ定期的に訪問し、田の浦のみなさんと交流することは田の浦のみなさんに喜んでもらえるだけでなく、訪問するメンバー自身の活動に対する意欲や幸福度の維持に大きく関わっていた。そのため、メンバーがまんべんなく現地へ赴き、田の浦のみなさんと交流することで、チーム全体の意欲の底上げになることがわかった。

今年度の課題は滋賀での活動の希薄さである。以前までは定期訪問が主な活動となっており、滋賀での活動は補助的なものであった。今年度、定期訪問ができなくなってしまったことにより、田の浦ファンクラブ学生サポートチームは大打撃を受けた。そのため、防災活動や田の浦のPR活動、LINKtoposなどに積極的に参加し、滋賀での活動をより充実させる必要があると感じた。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

現地とオンラインで繋げて行ったキャンドルイベントでは、距離は離れていても田の浦との繋がりを感ずることができました。一方で、今年度は現地訪問ができず、なかなか現地の方々との関係性を築くことができなかったことが心残りです。来年度はもっと密接な関係を築けるように尽力したいです。

尾橋春香 (地域文化学科1回生)

今回のキャンドルイベントを通して、直接震災について知らなかった人が考えることになる一つの機会になるのだと改めて感じました。また、外部の私たちが被災地である田の浦、またその人たちと関わっていくということでたくさんの方を知り、意識を持ち続けることが大切だと考えました。

菊河奈奈 (国際コミュニケーション学科2回生)

キャンドルイベントでは、このチームや他の団体の先輩方が築き上げられてきた事業と、現地の方との関係性に感銘を受けました。この結びつきを大切にこれからも活動を続けていきたいと強く感じました。

堀本拳志郎 (地域文化学科1回生)

## 地域からのコメント

田の浦契約会会長 佐藤功一さん

滋賀の学生たちともこの地元のおばあさま、お母さまたちとおちゃっこ飲み会を企画してやっていたんですけども、このコロナ禍のせいでそれが思うようにいかず、歯がゆい思いもしております。そういった中でも地元のコミュニティの発展をさらに進めていきたいと思っております。(キャンドルイベント in 田の浦でのコメントから)

## 指導教員より (抜粋)

地域共生センター 鵜飼修

新型コロナウイルス感染症がやや沈静化した11月に、ようやく現地を訪問する機会を得た。その際に滋賀と田の浦との感染症に対する認識の違いを知った。田の浦の位置する南三陸町では感染者がでていないことから、より一層神経をとがらせている状況であった。我々のそのときの訪問も、現地の方々にとってはかなりリスクの高いことであり、心労をおかけしたものと反省している。それでも、現地の方々からは、これまでの滋賀と田の浦の交流を途絶えさせてはならない、という思いもかがうことができた。

訪問がほぼできない中、学生たちは、田の浦へのお便りの配信や、踊りをDVDに収録して送るなどしていた。例年行っている、おすそわけファンド「ワカメ」のパッケージを学生がデザインし、NPOの活動資金を集めることができた。コロナ禍の中で、交流活動としての継続性を確保することはできたのではないだろうか。

3.11キャンドルイベント in 田の浦は、今年は現地とオンラインでつないでのイベントとすることができた。学生たちはリハーサルを何度も重ね、配信できるレベルに到達することができた。その模様はNHKや新聞各社で取り上げられ、多くの方に田の浦での活動を知っていただく機会を得た。会えないからこそ、リモートだからこそ、相手をよく知り、思いやる気持ちを抱くことが求められる。よく知らない状況で自分勝手に判断することが活動の信頼を失うリスクが高い。そういう教訓を得た1年であったと思う。来年にはオンラインとリアルを如何に組み合わせ、目指していた持続的な活動へと進化させることができるかが問われると思う。

## 新型コロナウイルス関連の対策

### ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・お便りの作成と送付  
リモートでやりとりしながら、すべての作業を個人で行う
- ・3.11キャンドルイベント in 田の浦  
現地訪問の学生は一人、YouTube配信に必要なメンバー以外は自宅からリモート参加

## DELIVERABLE

## 成果物 / 制作物



お便り送付 (6月～3月)

### <その他成果物>

- 3.11キャンドルイベント in 田の浦の動画「ズンドコ節体操」のDVD
- おすそわけファンドワカメのパッケージ作成

# 17 たけともミライ



## 竹の会所と共に歩む！

2011年9月、宮城県気仙沼市に復興の拠点となる「竹の会所」を建設しました。竹の会所を拠点として、建物の整備、補修、竹の会所でのイベントなどを実施し、地域の方に支えられて活動を行ってきました。現在は活動を纏めたブックレットの制作を行っています。

### TEAM DATA

チーム名：たけともミライ  
代表者：牧田弥果（環境科学部）  
メンバー数：12名  
指導教員：陶器浩一、山崎泰寛（環境科学部）  
活動場所：宮城県気仙沼市  
関係団体：株式会社高橋工業  
近江築座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

- 1) ブックレット用資料制作
- 2) ブックレット編集

★見出し写真：ページ検討（03/08）



写真選定（03/01）

- 3) リモート座談会

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時期学内での活動ができなかったが、リモートワークを駆使し、メンバーや地域の方、OB・OGの方が協力してくださったお陰で、ブックレットは出版間近まで仕上がった。10年という活動の集大成であるブックレットが仕上がったことによって、これまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを形にして伝えることができる。またさらに多くの方にこの活動を知ってもらうことができる。

今年度の活動は、これまで行ってきたワークショップのような直接現地で行う活動ではなく、ブックレット制作を通して地域の方と遠隔で意見を交わす活動であった。そのため今年度は地域のために何かをしたわけではなかったが、活動を開始する8月以前にも地域の方から連絡をいただいたり、遠隔での活動にも快く参加して下さったりと、改めて10年の活動で培った関係の濃さを実感することができた。遠く離れた地に居ても繋がりは続くことを体感した。

これが、制作したブックレットに限らずこの活動の根底であると考え。たけともミライは、直接的な活動がなくなっても、今後も地域の方との縁は無くならないし、ずっと良好な関係を築けるだろう。

今年度は、ブックレット制作に尽力できたことは良かったが、竹の会所跡地に未だに残る端材処理などの現地作業ができなかったことが課題である。ウイルス感染が収束した際には現地を訪れ、最後の作業に取り組みたい。また竹の会所が無くなりたけとも祭りが終わったことで、OB・OG方が地域の方と交流する場所がなくなってしまったという課題がある。来年度以降の活動として、竹の会所に関わった地域の方とたけともメンバーが集える会「たけとも」の再運用が必要であると考え。

以上2点を実行し、またみんなが集まるそのときに今回制作したブックレットを関係者全員に感謝の気持ちと共に送り、この活動を終わりたい。

## 活動を通して学んだこと

ワークショップに参加する中で、『建築とは建てて終わりではなく、始まりである』ということ学んだ。この編集活動を通して、建てた後の地域との関わりや建物を維持するための活動を詳しく知るにつれて、改めて竹の会所は始まりの建築なのだなと思った。この活動に携われて心から良かったと思う。

足立愛佳（環境建築デザイン学科3回生）

私は代表の1人として、主ミーティングの設定や外部の方との連絡を担当し、人と関わる難しさを感じると共に、社会人としてのマナーを学び、人として成長することができた。大学生のうちにこのような経験ができたことを誇りに思う。

里本麗（環境建築デザイン学科3回生）

私は書籍編集において力を入れたのは、座談会の進行の計画である。その段取りにおいて、どういった質問を投げかければ、学生と教授、地域の方々、OBなど、それぞれの思いを語り合えるかを考えるのが大変であったが、同時にそれぞれの立場で思うことを想像できたので、充実した時間であったと感じる。

岩田慧（環境建築デザイン学科3回生）

## 地域からのコメント

株式会社高橋工業 代表取締役 高橋和志さん

たけともミライの活動について、地域として改めて感謝申し上げます。震災後に学生たちで力を合わせて建ててくれた「竹の会所」は、一昨年に同じく学生たちによって解体し、それからもう1年半が経ちました。先日震災から10年を迎えましたが、昨年まで毎年たけとも学生たちが来てくれていました。研究や実施の建築的な活動やイベントや地域との交流の活動を、9年間も続けてきたことは努力の賜物だと思います。今年はコロナ禍もあり、地域に来てもらうことができず、学生たちの顔を見ることができなかつたことを残念に思います。それでも大学で本制作の活動を進めてきています。本はこれまでのたけとも活動を振り返るものになっていて、それを学生たちだけで作ることで、大いに学んでいってほしいです。学生たちが自分だからこそできることを、できる範囲で一つずつやっていくことが、これからの地域と学生の未来をつくる第一歩になると期待しています。

## 指導教員より

環境科学部 陶器浩一

当初は、現地において竹の会所解体後の片付け・整備と今までの活動をまとめたブックレットの制作を行う予定であった。ブックレット制作では、現地の方々へのインタビュー及び現地調査を計画していたがコロナ禍の影響で現地に赴くことができず、学内での作業が中心となった。作業は今までの膨大な資料の整理（アーカイブ作成）を行い、それに基づいてブックレットの編集を行っている。現地の方々に対しては、寄稿および一部オンラインインタビューをお願いして記事にしている。地域の方々やOBOGと十分な意思疎通が図れないなど多くの制約がある中で、構成や内容などを学生間で何度も協議して練り上げてくれて、初めて読む人にも活動の理念と内容が伝わってくる良い本が仕上がっている。

来年度を一応の区切りの年として、今年度行うことができなかった現地の片付け・整備、およびでき上がった本を携えて現地の方々へ今までのお礼を直接伝えたいと学生たちが言ってくれている。

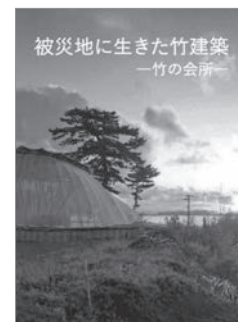
## 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・ミーティング室の配置変更
- ・リモートワーク環境の整備
- ・大学出入りのシフト制
- ・全面リモートワークへの切り替え（緊急事態宣言発令中の活動）

DELIVERABLE

成果物／制作物



ブックレット

「被災地に生きた竹建築 - 竹の会所 -」

# 18 Jesuit House Project



## Jesuit House の持続可能な保全と地域活動の拠点づくり

歴史的建造物である Jesuit House を生きた地域博物館へと改修し、都市部の脆弱な地域コミュニティの新たな拠所として、地域の子も達の情操教育や地域活動、地域コミュニティが新たに生まれる場所にしていくための活動を行っています。

### TEAM DATA

チーム名： Jesuit House Project  
代表者： 志賀美咲 (環境科学部)  
メンバー数： 8名  
指導教員： ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン(環境科学部)  
活動場所： 学内、フィリピンセブ市  
関係団体： NPOfootroots、HO-TONG FOUNDATION Inc 他  
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

- (1) フィリピンにおける火災で焼失した Chapel の設計
- (2) 切り絵ワークショップのオンライン開催と展示  
★見出し写真：展示準備 (12/18)



オンラインワークショップの様子 (12/01)



ピバシティ彦根での展示の様子 (12/20)

## 1年のまとめ・考察 (成果と課題) (抜粋)

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、対面からオンラインへ活動方法に大きな変化があった。

Jesuit house から敷地を抜け、フィリピンの現地のスタッフと情報の共有を行いながら、火災により焼失した教会再建の設計を提案する取組を行った。NPOのメンバーとオンラインミーティングによるディスカッションを行いながら、案の更なる改善と現地の人に向けた提案の発表を行った。今後の Chapel 再建の活動としては、状況が落ち着いてから実際に現地で施工することを目標に設計案の詳細を検討していく必要がある。課題として、日本にいながらでもオンラインだからこそできることは何かを模索し、活動の仕方を工夫することが重要であるとする。

二つ目の取組として、切り絵ワークショップの開催と展示を行った。また、ペンダントワークショップの展示サポートを行った。切り絵ワークショップでは80人と予想していたよりも多くの参加があり、274点もの作品が集まった。日本の伝統的な文化を伝えると同時に、少しでも作品づくりを通して明るい気持ちになってもらいたい思いからワークショップの開催に向けて準備を始めた。ワークショップに参加できてよかったという声や、悩みや不安の声を知ることができ、参加者の気持ちに寄り添うような交流の場にもなったのではないかと思います。

2021年度は Chapel の設計案を完成させ、実現にむけて準備を進めていく必要がある。また、オンラインの形式を用いた新たなワークショップを検討し、日本にいながらも地域の人と関わられるようなコミュニティの場を作りたいと考える。

## 活動を通して学んだこと (抜粋)

感染症が流行し、フィリピンへ訪れ現地の人と関わることができずに残念だった。しかし、オンラインでのワークショップを開催し、沢山の作品と出会うことができ、嬉しかった。アート作品は国境を超えて共有できるものなので、ビバシティで多くの人に見てもらえてよかった。次は実際の作品を展示できればと思う。

池田柚葉 (環境建築デザイン学科3回生)

フィリピンの子どもたちが作った切り絵の展示を通して、自由な発想力と創造力に感心させられた。切り絵を交えてフィリピンの子どもたちと交流できた感じがして、参加して良かったと思った。今回は間接的に関わっただけだったが、今後このような機会があれば切り絵以外にも何かの活動を通して関わりたいと思う。

葛輪優 (環境建築デザイン学科3回生)

コロナ禍ということもあり、フィリピンの人たちに会えず残念に思っていたが、写真で送られてきた切り絵やアクセサリーの作品を見るとすごく元気をもらえた。作品を写真という形だったが見てもらえる機会を設けられて良かった。オンラインでも人と繋がることができることを学べて、いい経験ができたと感じる。

片岡瑞稀 (環境建築デザイン学科3回生)

活動が思うようにできない状況にあり、何かできることはないか模索していた中、切り絵のワークショップを開催することができた。集まった作品はどれもオリジナリティがあり、地域の人からまた参加したいという声もあったことから、自身も頑張ろうと思えたことや、少しでも支援の輪を広げることができたことが良かったと感じる。

橋本京佳 (環境建築デザイン学科3回生)

## 地域からのコメント (抜粋)

### 切り絵ワークショップに参加した方のコメント

パンデミックが多くの問題を引き起こしているが、切り絵は本当に私の気持ちを穏やかにしてくれた。

この体験に感謝します。私は学生で、生活は非常に退屈なものになっています。なぜなら、授業はすべてオンラインで、毎日、何時間も同じ場所に座って、誰にも会っていません。

## 指導教員より (抜粋)

環境科学部 J.R. ヒメネス・ベルデホ

今年は、パンデミックの結果、世界は変化し、我々の生活も物心両面にわたって多くの影響を受けている。全ての近江楽座のプロジェクトは同じ問題を被っている。直接、顔を合わせてコミュニケーションができない。移動やグループでの活動ができない。これらの問題は海外のプロジェクト、Jesuit House Project の場合、より深刻である。フィリピンは最も長く、厳しく外出制限が実施されている国である。旅行ができないことはもちろん、居住区は閉鎖され、軍隊が街路を管理し、子どもたちは学校に行くことができない。

この困難な状況において、Jesuit House Project は、二つのオンライン・ワークショップを生み出して、新たな事態に対応している。まずペンダントワークショップは、アクセサリーをつくることで、恵まれない地区の人々を継続してサポートするものである。そして、切り絵ワークショップでは、紙を切る日本の伝統的な技術が教えられ、すべての年代にわたる100人が参加し、146の作品が集まった。二つのワークショップの成果が、日本でも先の12月に、ショッピングセンターのギャラリーで展示された。

このように結果だけでなく新たなプロジェクトを生み出し、課題を解決していこうとする学生たちの前向きな姿勢を祝福したい。

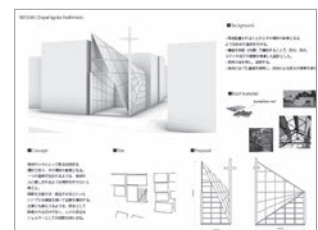
## 新型コロナウイルス関連の対策

### ・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・オンラインでのミーティング
- ・厳しい外出制限にあり、仕事や学校に通うことができないフィリピンの方のためのオンラインワークショップの開催。  
(多くの方に参加してもらうことができ、アートワークを通して、自粛の期間に少しでも明るい気持ちになってもらえるような新しい交流の場を作ることができた。)

## DELIVERABLE

## 成果物 / 制作物



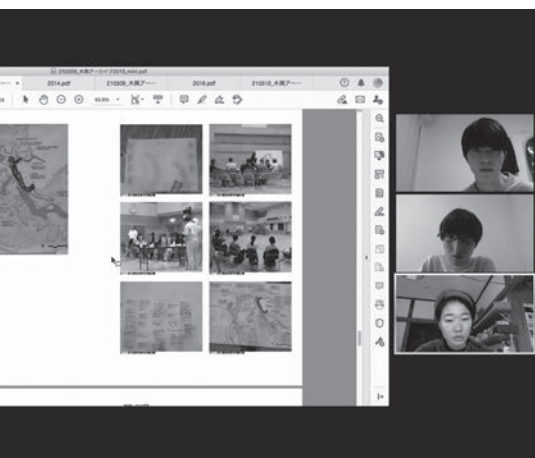
Chapel 再建のための設計案



切り絵・Pendiente ワークショップの展示  
(ビバシティ彦根にて)



# 19 木興プロジェクト



## 建築×被災地&復興まちづくり

東日本大震災を受けて、滋賀県立大学の建築デザイン、生活デザインの学生によって立ち上げられた震災復興プロジェクト。建築・デザインを学ぶ私たちに何ができるのか、何かしなければという思いをきっかけに、ものづくりによる復興支援を目的としています。

### TEAM DATA

チーム名：木興プロジェクト  
代表者：石川博利（環境科学部）  
メンバー数：4名  
指導教員：ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン（環境科学部）  
活動場所：学内、宮城県南三陸町歌津地区田の浦  
関係団体：NPO 法人田の浦ファンクラブ  
近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011  
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

## PROJECT

## 実施事業

- (1) アーカイブ作成  
★見出し写真：アーカイブ編集についての遠隔指導 (03/14)

- (2) これまでのデータ整理

- (3) 3.11 キャンドルイベント in 田の浦に参加

- (4) 東京建築コレクション 2021 出展



出展の様子 (03/02)

- (5) 定例ミーティング

## 1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

木興プロジェクト主体で田の浦に行かないという決断を行った今年度の活動は、団体としての終焉を迎える年として大きな1年だった。一昨年、昨年と田の浦で活動する中で、ものづくりを通して田の浦と関わり続けることの限界を感じた。そこで、ずっと話題に上がっていたアーカイブの作成を行うことを決めた。

アーカイブ作成において過去のデータを把握し、整理することに思いのほか時間がかかった。しかし、OB、OGの協力を得て各年度に対する点でしかなかった知識が線となり、ストーリーを帯びてからは作業が格段に捗った。作業は順調に進んでいるものの、今年度に印刷して最終成果物として提出する計画は達成できなかった。原因として計画や私たちの技術が至らなかったこともあるが、やはり一番は田の浦に行けなかったことにあると思う。改めて田の浦に定期的に通ってきたことの意義を強く感じる事ができた。彦根から約900kmという長い道のりを通い続けることにはやはり意味があったのだ。「来てくれてありがとう、また来てね。」この一言だけで私たちは頑張っていたのだ。

このアーカイブ作成の活動を最後に木興プロジェクトは団体としてなくなる。でも、私たちが田の浦の人々と築き上げてきた関係性は決してなくなることはないだろう。これからの関わり方の一つとして、田の浦に行きたい人が行きたい時に個人として行けば良いと思う。団体がなくなることへの焦燥感はあまり感じない。ただ、木興プロジェクトと田の浦が関わり続けた10年という一連の物語を私たちの心の中だけに留めるのではなく色々な人に知って欲しいと思う。津波や地震の恐ろしさ、目まぐるしく変化する被災地の様子、学生と被災地がどのように関わってきたのかなど語り部的な話はもちろん、メンバー一人ひとりの思い出の一つとしてでも良い。このプロジェクトに関わった人全てがこの活動を誇りに持ち、これからの人生の帆を上げられたら良いと思う。

## 活動を通して学んだこと

今年度は新型コロナウイルスに関係なく、私たちの活動が主体となり、現地に行かないということを決めていた。しかし、いざ行かないとなると現地の方々に会いたい気持ちや新型コロナウイルスで行けないことへのもどかしさからアーカイブ作成の際のモチベーションを保つことがうまくできない1年であった。アーカイブの作成はまだ道半ばであるものの着実に進んでおり、これからも継続して編集作業を行い完成させたい。

石川博利（環境建築デザイン学科3回生）

今年度は、過去9年間の活動の記録をまとめたアーカイブ(仮)を作成した。この活動を通して、まずは自分の関わっていない7年間の活動の流れを知れたことが大きかった。田の浦という集落がどのように復興していったのか、また、木興プロジェクトがどのように田の浦とかかわり続けてきたのかを知ることができた。

長尾悠希（環境建築デザイン学科3回生）

## 地域からのコメント

佐藤功一さん

集まれる場ができたし、集まる機会が増えた。若い人が来ることは嬉しいです。

金野安美さん

上の集会所も良いが、土足で使える場所は気が楽に使える、とおばあちゃんたちが言っていました。

三浦清登さん

憩いの場ができて色々集まれる。みんな明るくなって楽しくなった。

### 新型コロナウイルス関連の対策

・新たな取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・オンラインでの定例ミーティング（毎週）
- ・現地訪問ではなく学内やオンラインでの編集作業

DELIVERABLE

成果物／制作物

## 指導教員より

環境科学部 J.R. ヒメネス・ベルデホ

東日本大震災から10年が経過し、被災された方々にとってこの10年の一区切りは特別なものである。一方、震災後10年の記憶は悲しみの感情だけではない。10年間活動してきた多くの学生にとって、この追悼イベントはまた、学生と田の浦地区の人たちが共に取り組んできた復興活動の連帯と共存の記憶を呼び起こすものである。学生たちが今後、彼らの人生において東日本大震災を思い起こす時には、彼らが田の浦地区の再生のために貢献したという小さいけれど大事な砂の結晶を思い出すだろう。

今年度、木興プロジェクトの学生はパンデミックのため、田の浦の人たちと現地での交流はできなかった。今年度の活動は、これまでの10年にわたる復興支援活動と学生が体験したすべてのことを収集整理し、出版することがメインとなっており、来年度、完成予定である。写真と個人の体験記からなる100ページ以上の記録集は、関わったすべての学生が体験し心に刻んでいることを形にして表すものになるだろう。



9年間の活動をまとめたアーカイブ



## 2-2 『らくざしんぶん』

「らくざしんぶん」はチームが1年の活動をまとめた活動報告新聞です。共通トピックである①「チームのビッグニュース」②「プロジェクト紹介」③「プロジェクト自慢」④「地域の声」⑤「成果と課題」を中心に記事を作成しています。

近江楽座ホームページの「楽座文庫」に、カラー版のPDF ファイルを掲載しています。ぜひ御覧ください。

< 近江楽座ホームページ「楽座文庫」 >  
<http://ohmirakuza.net/books/>

## 01 BAMBOO HOUSE PROJECT

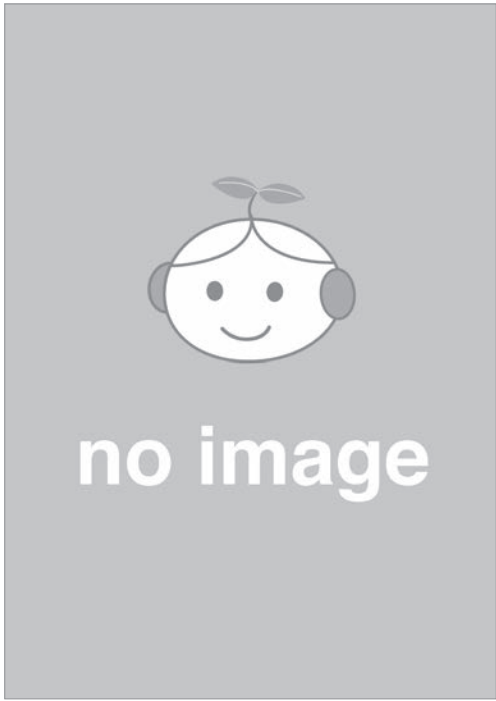
**BAMBOO HOUSE PROJECT**

「らくざしんぶん」は、チームが1年の活動をまとめた活動報告新聞です。共通トピックである①「チームのビッグニュース」②「プロジェクト紹介」③「プロジェクト自慢」④「地域の声」⑤「成果と課題」を中心に記事を作成しています。

近江楽座ホームページの「楽座文庫」に、カラー版のPDF ファイルを掲載しています。ぜひ御覧ください。

< 近江楽座ホームページ「楽座文庫」 >  
<http://ohmirakuza.net/books/>

## 02 未来看護塾



## 03 あかりんちゅ

あかりんちゅ

March 13, 2021

### AKARINCHU NEWS

あかりんちゅとは  
あかりんちゅでは、「エコでスローな夜を」をテーマに、寺社などからやむなく撤廃されてしまう機嫌、通称「後ろ」を回収・再利用し、手作りキャンドルの販売、キャンドルナイト・キャンドル作り教室の開催を行っています。

**OKB Street 7th Candle Night**  
12月4日に岐阜県大垣市のOKB street周年記念イベントにキャンドルナイトを行いました。あかりんちゅは有難いことに、OKB street が出来て以来毎年開催して頂いています。今年の規模は前年と同様の1000 露でした。19時からセッション開始となり、多くの方が見に来られました。今年はキャンドルで飾るものに「幸福」の意匠をもつローバー、龍の意匠をもつというアイデア、そしてこのOKBstreet さんでのイベントの贈り物もお喜ばしいお店の名刺にあからせて頂いた「龍」と、コロナ禍の世界的な状況や土地に関わるものなど、特に工夫を凝らしたデザインアップしました。

**地域の声**  
広場のキャンドルが並ぶ中に入ってみると、ひとつひとつが放つ熱や光を直に感じられ、いまや日常でなかなか触れる機会のない火そのものに魅了されました。不思議と寒さも、それまでの気化しさも忘れていました。

**(OKBstreet ご依頼者様)**  
キャンドルを見る機会が少ないが、とても癒される。  
(キャンドルナイトへの訪問者さん)

**あかりんちゅ自慢!**  
あかりんちゅの自慢といえば大きく言えば3つあります。まずはプロジェクトであること、基本的にはイベントを行った際の依頼料と教員の売上金で活動しています。二つ目は市内、どこへでも行って活動できること、材料は自分たちが全部持っていくため、移動費はほぼゼロというコンセプトが1つは自慢です。このため、様々な人との交流の機会があります。三つ目は様々な団体との連携があること、近江楽座の団体からキャンドルナイト用のワックスを作ってくれる福徳院のジニアスさん、機織り集めてくれる福徳院の吉岡さん、2つ月に集めた機織り、様々な人と関わって活動している団体です。

**成果と課題**  
今年度はコロナ禍でなかなか活動できない状況が続いた。そこで SNS のアカウントの運営を開始したりオンライン販売に参加したりネット上での活動を積極的に行った。「活動の仕組みや運営」を何らかの形で残し、内蔵に発展する方法を考えていきたい。

04 とよさと快蔵プロジェクト

発行日 2021年3月31日



### 近江楽座

#### とよさと快蔵プロジェクト

## タルタルガ リニキュールガ

近江楽座は、近江の伝統音楽を現代に伝えることを目指し、様々な活動を行っています。今年も、とよさと快蔵プロジェクトの一環として、様々な取り組みを行っています。

今年度は、コロナ禍の影響を受け、活動が制限されましたが、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。また、地域の声を取り入れ、より身近な活動を目指しています。

今年度の活動は、地域の声を取り入れ、より身近な活動を目指しています。また、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。

今年度の活動は、地域の声を取り入れ、より身近な活動を目指しています。また、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。

今年度の活動は、地域の声を取り入れ、より身近な活動を目指しています。また、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。

05 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

発行日 2021年3月31日



### 近江楽座 ボランティアサークル Harmony

#### 障がい児・者の生涯学習支援活動「に係る」 科学大臣表彰を受賞!

Harmonyは、障がい児・者の生涯学習支援活動「に係る」科学大臣表彰を受賞しました。これは、私たちの活動が、社会に大きな貢献をしていることを評価していただいたことへの感謝です。

今年度は、コロナ禍の影響を受け、活動が制限されましたが、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。

今年度の活動は、地域の声を取り入れ、より身近な活動を目指しています。また、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。

今年度の活動は、地域の声を取り入れ、より身近な活動を目指しています。また、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。

今年度の活動は、地域の声を取り入れ、より身近な活動を目指しています。また、オンライン配信や、録音制作の手法を用いて、活動を継続しました。

06 内湖の再生と地域の水辺コーディネート

発行日 2021年3月31日



### OHMI-RAKUZA 滋賀県大まき生物研究会

#### チームのビッグニュース

## 新しい活動様式

### 9月から活動再開

環境教育動画を制作

プロジェクト紹介

成果と課題


声

LINE Twitter Instagram

外来魚 ひとりがたり

07 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

発行日 2021年3月31日



### かみおかべ古民家活用計画

#### -SLEEPING BEAUTY-

竹藪が完成

プロジェクト報告

成果と課題

声

LINE Twitter Instagram

外来魚 ひとりがたり

# 08 廃棄物バスターズ

発行日 令和3年3月31日

## 廃棄物バスターズ新聞

### 廃プラスチック資源リサイクルへ 「雨水タンク」

当団体は、産業プラスチックの材料として用いられた廃プラスチックを、資源として活用するために、この活動で取り組んでいます。この活動で取り組んでいるのは、雨水タンクです。雨水タンクは、雨水を貯めて再利用するための装置です。雨水タンクを設置することで、雨水を貯めて再利用することで、水の節約につながります。また、雨水タンクを設置することで、雨水を貯めて再利用することで、水の節約につながります。また、雨水タンクを設置することで、雨水を貯めて再利用することで、水の節約につながります。

「雨水タンク」の活用は、環境保護と資源リサイクルの両面から重要な役割を果たしています。雨水タンクを設置することで、雨水を貯めて再利用することで、水の節約につながります。また、雨水タンクを設置することで、雨水を貯めて再利用することで、水の節約につながります。また、雨水タンクを設置することで、雨水を貯めて再利用することで、水の節約につながります。

今後の展望として、雨水タンクの設置をさらに広げたいと考えています。また、雨水タンクの設置をさらに広げたいと考えています。また、雨水タンクの設置をさらに広げたいと考えています。

# 09 フLOWERエネルギー「なの・わり」

発行日 2021年3月31日 産産新聞

## フLOWERエネルギー「なの・わり」

### 小学校出前授業にて 搾油体験を実施

「フLOWERエネルギー」の活動の一環として、小学校に出前授業を行いました。この授業では、植物の搾油体験を実施しました。子どもたちは、植物の搾油の仕組みや、搾油した油の用途について学びました。また、搾油体験を通じて、植物の成長や収穫の大切さについても学びました。

### 地域の声

地域の声として、子どもたちの反応や、地域の方々の反応について紹介しています。子どもたちは、搾油体験を通じて、植物の成長や収穫の大切さについても学びました。また、搾油体験を通じて、植物の成長や収穫の大切さについても学びました。

### プロジェクト紹介

プロジェクト紹介として、フLOWERエネルギーの活動内容や、今後の展望について紹介しています。フLOWERエネルギーの活動内容や、今後の展望について紹介しています。

### 成果と課題

成果と課題として、今回の活動の成果や、今後の課題について紹介しています。今回の活動の成果や、今後の課題について紹介しています。

# 10 座・沖島

発行日 令和3年3月31日

## 座・沖島新聞

Vol.05 2021.3.15

### 今年度のスケジュール

- 11月 新入会歓迎
- 12月 歳暮
- 1月 歳暮
- 2月 歳暮

### 座・沖島とは

座・沖島とは、座・沖島の活動について紹介しています。座・沖島の活動について紹介しています。

### 沖島のお祭りのお手紙

沖島のお祭りのお手紙について紹介しています。沖島のお祭りのお手紙について紹介しています。

### 沖島住民の声

沖島住民の声について紹介しています。沖島住民の声について紹介しています。

### 歳暮5年を振り返る

歳暮5年を振り返るについて紹介しています。歳暮5年を振り返るについて紹介しています。

# 11 政所茶レン茶

発行日 2021年3月31日

## 政所茶レン茶

### 政所茶のPR活動

政所茶のPR活動について紹介しています。政所茶のPR活動について紹介しています。

### 新しい販売方法の模索

新しい販売方法の模索について紹介しています。新しい販売方法の模索について紹介しています。

### 1年間の畑作業と苦労

1年間の畑作業と苦労について紹介しています。1年間の畑作業と苦労について紹介しています。

### ブルーメの丘

ブルーメの丘について紹介しています。ブルーメの丘について紹介しています。

### 活動成果と課題

活動成果と課題について紹介しています。活動成果と課題について紹介しています。

### 地域の方の声

地域の方の声について紹介しています。地域の方の声について紹介しています。



# 16 田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム

**田の浦のまち歩きへはじめるプロジェクト**

「田の浦」を「田」から「浦」まで、まち歩きを通して、まちの魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「田の浦」を「田」から「浦」まで、まち歩きを通して、まちの魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**ヒコウイベント**

「ヒコウ」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「ヒコウ」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**地域の声**

「地域の声」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「地域の声」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**田の浦の学生サポートチームについて**

田の浦の学生サポートチームは、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

田の浦の学生サポートチームは、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**一言人物紹介**

「一言人物紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「一言人物紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**地域紹介**

「地域紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「地域紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**田の浦の紹介**

「田の浦の紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「田の浦の紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**ちよっと聞いてよ！プロジェクト自慢**

「ちよっと聞いてよ！プロジェクト自慢」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「ちよっと聞いてよ！プロジェクト自慢」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**昨年年度の成果と課題**

「昨年年度の成果と課題」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「昨年年度の成果と課題」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

**田の浦の紹介**

「田の浦の紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「田の浦の紹介」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

# 17 たけともミライ

2021年(令和3年) 3月31日(水) 発行

## 「被災地に生きた竹建築」

被災地に生きた竹建築の現状と未来について、田の浦の学生サポートチームが調査した結果を発表します。

被災地に生きた竹建築の現状と未来について、田の浦の学生サポートチームが調査した結果を発表します。

被災地に生きた竹建築の現状と未来について、田の浦の学生サポートチームが調査した結果を発表します。

被災地に生きた竹建築の現状と未来について、田の浦の学生サポートチームが調査した結果を発表します。

# 18 Jesuit House Project

## Jesuit House Project 2020

2020年12月15日 発行

「Jesuit House Project」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「Jesuit House Project」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「Jesuit House Project」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「Jesuit House Project」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

# 19 木興プロジェクト

## 木興プロジェクト

「木興プロジェクト」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「木興プロジェクト」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「木興プロジェクト」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

「木興プロジェクト」は、田の浦の魅力を発信し、まちの魅力を伝える活動です。

### 3 共通プログラムの報告



2020年度 近江楽座  
**活動成果報告会 試聴会**

2021年  
**4/21(水), 22(木), 23(金)**  
5限(16:30-18:00)

会場: 交流センター ホール

※発表は湖風会館(会議室・談話室)で行います。  
また、交流センターホールで発表の様子を同時中継しますので、気軽にご参加ください。

「近江楽座」は学生主体の地域活動を応援する取組です。  
2020年度の近江楽座20チームが1年の活動を3日間に分けて発表します。  
発表スケジュールは裏面をご覧ください。  
近江楽座が気になっている方、地域貢献活動に興味のある方、  
ぜひご参加ください!

近江楽座ってどんなチームがあるの? どんな活動をしているの?

(参加方法)  
交流センター ホールに直接お越しください。  
入退場は自由としますが、下記の感染対策にご協力ください。  
・マスクの着用 ・入場時の手指消毒  
・入口での受付票の記入 ・足をあけて扇風する  
湖風会館で直接発表をご覧になりたい場合は下記お問合せ先までご連絡ください。

活動報告新聞 | 4/21-5/14 9:00-17:00  
展示 | 交流センター ホワイエ  
チームの1年間の活動をまとめた活動報告新聞を展示します。

お問合せ | 滋賀県立大学 近江楽座事務局 〒522-8533 滋賀県彦根市八田町 2500  
TEL: 0749-26-8616 Mail: info@ohmika.ac.jp HP: http://ohmika.ac.jp/

2020年度近江楽座活動成果報告会を4月21日、22日、23日の3日に分けて開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、発表会場とは別に中継視聴会場を設けて行いました。

新型コロナウイルスにより、例年通りの活動を行うことが難しい状況で、どのように活動を進めてきたのか、それぞれの1年間を報告しました。

発表の様子はYouTubeで公開しました。

また、中継視聴会場の交流センターのホワイエでは有志のチームが活動紹介を実施しました。

日時: 2021年4月21日(水) ~ 4月23日(金)

16:30 ~ 18:00

発表会場: 湖風会館(A7棟) 会議室・談話室

視聴会場: 交流センター ホール

## 1日目(4/21)

司会進行: 平山奈央子先生(環境科学部)

<発表チーム>

- ・あかりんちゅ  
地域からの依頼でキャンドルナイトを実施。コロナ禍で癒しのひとつに。
- ・とよさと快蔵プロジェクト  
タルタルーガの営業ができないのを逆にとり、普段できない改装を実施。イベントが実施できない中で、活動を見直す期間にした。
- ・かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-  
新型コロナウイルスで活動が減少したが、古民家の改修で地域のお祭りで使用した木材を活用するなど、地域とのつながりを持ちながら活動。
- ・政所茶レン茶<sup>®</sup> -  
茶摘みでは一般の方の参加を見送ることに。イベント減少ため対面での販売が難しくなったため、インターネットでの販売を開始。
- ・スチューデント・キュレーターズ  
調査に行くことが難しい状況だったが、米原での展示事業など新たなことに挑戦する年になり、活動体制と情報共有について改めて考える年となった。
- ・田の浦ファンクラブ学生サポートチーム  
田の浦への訪問が難しく、滋賀から田の浦に向けた活動を行う。お便りを作成して活動紹介やメンバーの自己紹介をしたり、3月11日には東日本大震災の追悼イベントを田の浦と滋賀をオンラインでつないで開催した。
- ・木興プロジェクト  
これまで実施できていなかったアーカイブの作成を行い、活動に区切りをつけた。OBOGにも作成に協力いただき、編集においてもオンラインを活用してOGから指導いただいた。

平山先生からは活動を変えるタイミングは難しいが、同じ活動を続けることに意味があるものも

あれば、ステップアップしていくことに意味があるものもある。先輩がやってきたことを頭の隅に置きつつも、自分たちのやりたいように活動をアレンジしていてもいいのではないかとコメントいただきました。

## | 2日目 (4/22)

司会進行：印南比呂志先生（人間文化学部）

<発表チーム>

### ・BAMBOO HOUSE PROJECT

小学校などが休校になった際に竹の庭が遊び場になった。新築の制作を感染状況の悪化により断念したが、地域と話し合いをすすめ、2・3年後を見据えた竹の庭の全体計画を行っている。

### ・未来看護塾

OBOGから現場の声を聞くことができ、どのような活動が役に立つのか考えることができた。また、これが小学校でのボランティアにつながった。

### ・ボランティアサークル Harmony

定例会議やイベントでオンラインを活用。新型コロナウイルスで定例活動などの実施が少なくなったので、オンラインの学習会など、新たな活動を考案していきたい。

### ・子ども学習支援サポーターズ

ミーティングなどでオンラインの活用を目指していたが、実施できなかった。イベントでは昨年度の課題を踏まえてクリスマス会を実施することができた。

### ・廃棄物バスターズ

例年実施している活動も行いながら、動画の制作や中学校でのSDGsの授業の講師など外部との取組が増え、活動の幅が広がった。

### ・フラワーエネルギー「なの・わり」

菜の花栽培は作業人数を制限し、一人の作業量が増えたもののメンバーと協力して実施。小学校での出前授業は搾油体験を取り入れて資源の大

切さを知ってもらうことができた。

### ・たけともミライ

昨年度に竹の会所を解体し、これまでの活動の軌跡を残すブックレットの作成を行った。OBOGにも協力いただき、10年間の活動をまとめた。現地に行くことができず、竹の会所の残材処理などができなかったため、来年度に実施していきたい。

印南先生からはコロナ禍の成果発表と思えない。地域に入ってこれだけ活動ができていたことを大学の誇りだと思っている。賞を取ったプロジェクトがあったり、活動を誰かは見ていてくれる。ぜひ続けていってほしい。とコメントいただきました。

## | 3日目 (4/23)

司会進行：平岡俊一先生（環境科学部）

<発表チーム>

### ・滋賀県大生き物研究会

小学生を対象とした環境教育動画を作成し、YouTubeで公開。外来魚などについてのオンライン勉強会を行うなどオンラインを活用。

### ・座・沖島

新しい事業として畑整備を行い、来年度はレモン・青パパイヤを植えて、料理に活用。商品化を考えていきたい。

### ・とよさらだプロジェクト

イベントは参加できなかったが、野菜作りと農機具の修理を実施。畑で作業をしていると地域の方が声をかけてくださり、農機具の修理でも部品の交換などを教えてもらった。

### ・おとくらプロジェクト

喫茶営業ができないため、準備・振り返りの期間とした。営業再開後を見据え、メニュー考案会を実施したり、メニューの充実を図った。

### ・Taga-Town-Project

イベントの開催ができないため、メンバーで字

巡りを行うなど、新たに多賀町の魅力の発見をするインプットの機会になった。

- Jesuit House Project

チャペルの設計など、現地との調整にオンラインを活用。フィリピンでは外出制限があるため、現地の方が自宅や学校から参加できるワークショップを実施し、ビバシティ彦根でワークショップで作った作品を展示した。

平岡先生からは新型コロナウイルスによりできなかったことがある一方、オンラインの活用や直接会わなくても活動できることを知れた。ある意味、貴重な経験。それでも直接現場に行かないと得られないものもあり、それを知れたのも意義がある。また、他大学の学生と一緒に何かをしたり、大学の枠を越えて連携して行ってほしい。とコメントいただきました。

## まとめ

新型コロナウイルスにより思うように活動ができなかった1年間をチーム同士で共有することができました。

オンラインの活用により新たな形で活動を進めたプロジェクト。地域に入ること自体が難しくなり、地域とのつながりを持つことが難しかったプロジェクト。様々なプロジェクトがあり、それぞれにできることを考え、活動を続けてきたことをお互いに知り、これからの活動に生かしていく場となりました。

視聴会の参加者からは新型コロナウイルスの影響を受けながらも、活動を続けようとする組んでいるのを知り、ますます活動に興味を持ったという声がありました。

## 当日の様子



交流センター ホワイエでの活動紹介の様子

### <活動成果報告会の動画>

[http://ohmirakuza.net/report/20houkoku\\_report/](http://ohmirakuza.net/report/20houkoku_report/)



## 4 学生有志活動

**近江楽座**  
**プロジェクト**  
**説明会**

11月18日(水)・19日(木)・20日(金)

12:10-13:10 入退場自由  
16:30-18:30

参加者が多い場合は別の時間帯でご参加ください。

**内容**  
近江楽座有志チームが各ブースにて活動紹介を行います。  
「近江楽座」は学生主体の地域貢献活動を応援する取組です。まちづくり、地域おこし、地域文化の継承・再生、社会福祉、環境保全、ものづくり、復興支援など、様々なテーマで活動しています。  
参加される方は入場前の手洗いの消毒やマスクの着用等、新型コロナウイルス感染防止にご協力をお願いします。

**参加予定チーム**  
おとくらプロジェクト  
かみおかべ古民家活用計画「SLEEPING BEAUTY」展・体験  
滋賀県大生き物研究会  
地域福祉推進プロジェクト  
田の浦ファンクラブ学生サポートチーム  
とよさと快蔵プロジェクト  
とよさらだプロジェクト  
ボランティアサークル Harmony  
政所茶レンジャー  
未来看護塾

**会場**  
交流センター2階 研修室

**お問合せ**  
近江楽座事務局（交流センター内）  
TEL:0749-28-8616 MAIL:info@nearuakuzo.net

"近江楽座や近江楽座チームをもっと知ってもらおう!"、"活動に興味を持ってもらおう!"という目的から、近江楽座学生委員会の呼びかけにより、有志チームによる近江楽座説明会が開催されました。

## | 学生委員会とは

近江楽座を更に推進していくために、チーム間の交流・連携を目的として発足した有志学生による組織です。2006年に、当時のプロジェクトチームの代表経験者が中心となり結成されました。学部・学科・プロジェクトの枠を超えて活動の輪を広げ、地域活性化に貢献するためのネットワーク形成を目指し、学生ならではの視点で近江楽座をサポートしています。

## | 合同説明会

日 時：2020年11月18日(水)、19日(木)、  
20日(金) 16:30~19:00

会 場：交流センター 2階 研修室 5・6・7・8

開催内容：

- ブース相談会
- 2019年度の活動報告新聞の展示

<参加チーム>

- ・あかりんちゅ
- ・おとくらプロジェクト
- ・かみおかべ古民家活用計画「SLEEPING BEAUTY」
- ・子ども学習支援サポーターズ
- ・座・沖島
- ・滋賀県大生き物研究会
- ・スチューデント・キュレイターズ
- ・田の浦ファンクラブ学生サポートチーム
- ・とよさと快蔵プロジェクト
- ・とよさらだプロジェクト
- ・ボランティアサークル Harmony
- ・政所茶レンジャー
- ・未来看護塾

例年4月に開催していた合同説明会を11月の3日間で開催しました。

前期は新型コロナウイルスの影響で活動が制限され、対面で活動を説明する機会が少なかったため、自分たちの活動を、近江楽座に興味のある学生に知ってもらう機会となりました。

## 4-2 新入生に向けてのメッセージ

### 大学ホームページ掲載のメッセージ

授業の開始が延期され、同級生や先輩とのつながりが持てない中、学生生活について不安を抱えた新入生に向けて、廣川学長や先生方、先輩学生から激励のメッセージが大学ホームページに掲載されました。近江楽座のチームからもメッセージを発信しました。

#### <参加チーム>

- ・滋賀県大生き物研究会
- ・かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-
- ・おとくらプロジェクト
- ・とよさらだプロジェクト
- ・とよさと快蔵プロジェクト
- ・フラワーエネルギー「なの・わり」
- ・ボランティアサークル Harmony
- ・Taga-Town-Project
- ・座・沖島
- ・政所茶レン茶`ー
- ・田の浦ファンクラブ学生サポートチーム
- ・廃棄物バスターズ
- ・子ども学習支援サポーターズ
- ・未来看護塾
- ・スチューデント・キュレイターズ
- ・あかりんちゅ

#### <掲載ページ>

<https://www.usp.ac.jp/topics2/message/>



### 近江楽座ホームページ掲載のメッセージ

近江楽座ホームページでも新入生に向けてのメッセージを掲載しました。

こちらではチームからのメッセージに加えて、2019年度に活動したチーム全ての活動紹介と活動写真を掲載しました。

#### <掲載ページ>

[http://ohmirakuza.net/other\\_topics/pj19shokai/](http://ohmirakuza.net/other_topics/pj19shokai/)



**近江楽座** 学生も 大学も 地域も いっしょに育つ

TOP 近江楽座とは プロジェクト 参加人物紹介 専業主婦

トピックス

【プロジェクト紹介vol.1】あかりんちゅ  
2020年8月31日(月) 更新

2019年度に活動したプロジェクトを順番に紹介していきます！

あかりんちゅ

商業されるろうそくを回収し、リサイクルキャンドルを製作。キャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドル販売を行っています。

チームからのメッセージ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！  
待ちに待った大学生活がなかなか始まらず辛い気持ちになっているかも知れませんが、再開した時心から楽しめるよう、今は耐えるしかありません。皆で頑張りましょう！

私たちがあかりんちゅは、お寺から集めたろうそくを再利用した活動をしています。次にオリジナルキャンドル製作やその販売、キャンドルナイト やキャンドル作り教室の開催などを行っております。地域のイベントに呼んで頂く事も、地域の福祉に繋がる機会も多いため、福祉団体との繋がりも、地域貢献にも関わっています。長年ご依頼を頂いている団体もあり、色々な方との繋がりも得ています！  
学校が再開した際には、私たちと一緒に”エコな視”を磨きませんか？

これまでのトピックス

- カテゴリ
  - ・お知らせ・告知
  - ・その他
  - ・レポート・報告
- アーカイブ
  - ▼2021 (8)
  - ▶8月(2)
  - ▶7月(1)
  - ▶6月(2)
  - ▶5月(1)
  - ▶4月(1)
  - ▶1月(2)
  - ▼2020 (34)
  - ▶12月(1)
  - ▶11月(2)
  - ▶9月(1)
  - ▼8月(2)
- 2019年度プロジェクト紹介もチェック
  - 【プロジェクト紹介vol.1(2)】ハチャール村カディプロジェクト
  - 【プロジェクト紹介vol.1(2)】Jesuit House Project
  - 【プロジェクト紹介vol.1(2)】滋賀県大生き物研究会
  - 【プロジェクト紹介vol.1(2)】座・沖島
  - 【プロジェクト紹介vol.1(2)】とよさらだプロジェクト
  - 【プロジェクト紹介vol.1(2)】フラワーエネルギー

近江楽座ホームページ掲載の新入生へのメッセージ  
(あかりんちゅ)

## 4-3 WEB オープンキャンパス

対面でのオープンキャンパスに代わり、WEBオープンキャンパスが実施されました。

WEB オープンキャンパスのサイト内では近江楽座も紹介されました。

掲載内容：

- 動画「近江楽座プロジェクトギャラリー」
- 近江楽座の概要
- チームから受験生へのメッセージ

<メッセージ参加チーム>

- ・ボランティアサークル Harmony
- ・滋賀県大生き物研究会
- ・フラワーエネルギー「なの・わり」
- ・おとくらプロジェクト
- ・Taga-Town-Project
- ・スチューデント・キュレーターズ

滋賀県立大学  
THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

お問合せ MENU

### 近江楽座

— 地域課題の解決に学生が取り組むプログラム —

近江楽座は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに掲げる滋賀県立大学の学生教育プログラムです。学生たちは地域の方々と一緒に活動することで、学内では学べないことを体験します。学生らしさを生かして地域に学び、育ち、貢献する。そんな学びの場づくりを目指しています。

#### 近江楽座プロジェクトギャラリー

近江楽座プロジェクトギャラリー 1  
2019年度 近江楽座  
プロジェクトギャラリー  
パート1

近江楽座プロジェクトギャラリー 2  
2019年度 近江楽座  
プロジェクトギャラリー  
パート2

**Point1 学生主体で活動**  
学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見出し、プロジェクトを企画。厳正な審査で採択されたプロジェクトは、経費や教育指導等の支援のもと活動します。

**Point2 幅広い分野の地域課題**  
これまで培ってきたノウハウ・地域とのつながりを生かし、さまざまな分野の地域課題に取り組んでいます。

**Point3 多様な活動形態**  
目的や内容など、多様な地域活動に合わせたプロジェクトのタイプがあります。

▶ **Aプロジェクト／学生主体型プロジェクト**  
SDGsの視点も踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

▶ **Bプロジェクト／地域協働型プロジェクト**  
自治体や企業、団体などから依頼のあった課題の中で、学生が中心となって取り組むのがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集。指導教員と地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組めます。

**Point4 大学発地域貢献の先進的な取組として高く評価**  
「大学SDGs ACTION! AWARDS 2019」において、とよさと建築プロジェクトが「スタディツアー<下川町>JAL」賞を受賞

WEB オープンキャンパス  
近江楽座ページ



## 4-4 キャンパスSDGs びわ湖大会 2020

～「子ども・若者」と「大人」がともに歩むSDGsへの10年～

**オンライン開催**

# キャンパスSDGs びわ湖大会 2020

2020.11.21 (土) 10:00-17:00

～「子ども・若者」と「大人」がともに歩むSDGsへの10年～

**10:10 | 11:50** コロナ禍からの学びをミライに生かす「あつまれ！がくせいの森」  
新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は大きく変わりました。このようなコロナ禍から大学生たちは何を学び、どんな学びを求めているのでしょうか。この経験が今後の社会にどう活かすか学生と先輩が意見を交わします。  
【参加大学】 滋賀県立大学、滋賀大学、立命館大学ほか(予定)

**13:00** SDGsの最前線にいるプロフェッショナル  
三日月知事も特別出演！

**14:10** 基調講演(一般社団法人Think the Earth理事長 上原社一員)  
SDGs達成期である2030年に向け、具体的な取組も加増するには、「子ども・若者」が今日のリーダーとして活躍し、「大人」がそれを支えていくことがとても大切です。企業や学校でSDGsの取組を推進し、若い世代の取組を応援されている上原社一員さんに「行動の10年」へのヒントの方向性を伺います。

**14:20 | 16:45** 「子ども・若者」マイプロジェクト報告  
県内外の小生から大学生までがSDGsに向けた活動の報告を行います。  
- 滋賀のSDGsへの取組を大学生が提供する「SHIGA SDGs Studios」  
- 高尾駅駅舎を改装するイベント「なまほろ高尾駅前再生プロジェクト」  
- 空き店舗を活用した産直所「いなまほろ165ショッププロジェクト」  
- 地域の魅力を再発見「地域診断法」をふまえた「めぐり」など

**11/20(金)16:30-18:30** プレイベント開催！  
滋賀県×滋賀県立大学×内閣府 地方創生SDGsフォーラム  
「コロナ禍における地方創生SDGsの推進」  
You Thinkのオンライン開催。講師は、近日公開の特別イベントにて！

**参加方法**  
①QRコードより、HPにアクセスし申込フォームより参加申込み！ イベントHP  
②申し込んだ方には、各自使用するURLを各自メールにてご案内。  
③各自はYouTubeにて視聴し、URLの「ライブ」を使って質疑応答も可！

主催：公立大学法人 滋賀県立大学 問合せ先：滋賀県立大学 地域共生センター(併設)  
共催：びわ湖東北部地域連携協議会・滋賀県 メール：ohk@office.pcc.ac.jp 電話：0749-28-9851

日時：2020年11月21日(土) 10:00-17:00  
主催：滋賀県立大学  
共催：びわ湖東北部地域連携協議会、滋賀県

県内外の学生や社会人が、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に関連する情報発信や情報交換を行い交流を深めるとともに、新たなネットワークを構築するイベントで、オンラインで開催されました。

学生と知事との対談や基調講演が行われ、近江楽座は有志のチームがオンラインパネル展示に参加し、活動を発表しました。

### <パネル展示参加チーム>

- ・BAMBOO HOUSE PROJECT
- ・Taga-Town-Project
- ・フラワーエネルギー「なの・わり」
- ・子ども学習支援サポーターズ
- ・おとくらプロジェクト
- ・未来看護塾
- ・廃棄物バスターズ
- ・滋賀県大生き物研究会
- ・田の浦ファンクラブ学生サポートチーム

**【これまでの経緯】**  
高宮町の古民家を改修し、喫茶・ギャラリー活動を開始  
2009年、高宮町にある古民家の家主の方と、滋賀県立大学の環境建築学科の中野先生から、「古民家改修の新たな取り組みの試みを地域と学生の交流拠点として活用する学生コンプレックスの運営をする。」という共同プロジェクトがスタートした。コンプレックスに集まった4組の中から、古民家改修とギャラリー活動を行う「おとくら」が選ばれた。学生たちのプランをもとに、申込に必要とする土壌・家業・配管の調査を行い、2009年に「おとくら」が完成し、活動が開始した。  
これまでの活動内容は、喫茶営業、ギャラリースペースでのアーティストの作品展示をメインとし、イベントスペースを活用した展覧やコンサートなどのイベントを行ってきた。さらには高宮地域での他では、子供たち向けの手作りゲームコーナーなども設けられてきた。

**【おとくらプロジェクト】学生と地域によるギャラリー喫茶の運営**

【基本情報】  
【活動目的】 学生が地域の中に入り、地域の人々とともに活動を行う。また喫茶営業、ギャラリー活動、イベントを実施している。学生の活動とつながりやすい拠点。よき者の新鮮な視点から高宮の魅力を発信すること。高宮に活性、影響を与えたいことを目的とする。  
【SDGs(目標番号)】11  
【活動拠点】 彦根市高宮町1121 ギャラリー-高宮おとくら  
【活動期間】 2009年～  
【活動メンバー】 25人 (2020年10月現在)  
【連絡先】 代表者名：石田一雄・後援員  
メールアドレス：otokura.kiss@pcc.ac.jp  
ホームページ：https://otokura.kiss.pcc.ac.jp/  
Instagram：https://www.instagram.com/otokurakiss/

**【現在の活動状況】**  
変わることもない「高宮への思い」を活動に込めて  
現在コロナ禍であるが、これまで同様、ギャラリーの活動を続けています。また、この状況下で「高宮に新しい風を吹かせる」ために行っていることを考えました。喫茶の活動を伝えることを目的の一つとし、喫茶の活動やメニュー開発も行っています。おとくらへの活動は、高宮の方々に受け継がれ、おとくらメンバーそれぞれが思いが込められた手書きの感謝メッセージを届けています。  
また、9月から10月にかけて滋賀県立大学の一団生の体験を実施しています。目的は、実際におとくらに来ると高宮の歴史や暮らしを感じ取ってもらい、今後の活動に繋がることである。その他、大学内で週に1回ミーティングを行い、おとくらのメンバーが活動状況を把握し、高宮について触れる機会を設けている。  
活動を運営を行う必要がある報告の状況において、メンバーが自分たちができることは何かを考え、提案しながら活動を行っている。

**【2030年どんな社会をつくりたいですか?】**  
現在、都府県への人口の集中化が顕著で、徐々に寂れゆく地域と、誰からも愛されないまま残されている地域(二地帯)が目に見えつつある。高宮はそんな地域である高宮を山間の集落として捉え、そこをこの高宮のみが活動の中心と捉えられている地域の一つである。しかし、これまで10年間の2030年には、その高宮が都市化に促され、消滅してしまっている可能性も考えられる。  
おとくらプロジェクトでは、そのような寂れゆく地域を活性化しながら、少しお手頃な価格で暮らすことができ、その土地の風土や特色を最大限に活かせるような環境を創り出すことで元気を取り戻すことができればよい、活動している。  
めまぐるしい速さで変化を遂げる中で、高宮のような地域が、時間を忘れてほっこり寄り添うような暮らしを実現し人々を魅了される、そんな社会を構築する一歩に近くおとくらプロジェクトがあることができたらと思います。

オンラインパネル展示 (おとくらプロジェクト)





## 4-5 B プロジェクト「県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト」

滋賀県と協定を締結し、県営住宅の空き住戸を活用して地域コミュニティの活性化を図る取組を進めました。活動は3つの柱からなり、1つがシェアハウス。学生が実際に暮らしながら地域と関わる活動を進めました。2つ目が、学生活動の拠点「楽座ルーム」の利用・運営。3つ目は、地域に向けてのイベントの開催です。今年度は、残念ながらイベントは実施できませんでした。

### | シェアハウス

5名の学生が1年間県営住宅団地で生活し、草むしりや階段清掃等の共同活動、町内会費の集金などの活動を行いました。

学生からは家族と離れている中で、団地に住む方が元気になっているかなど声をかけてくださって気持ち救われたという声がありました。

また、町内会費の集金ではどうしたらいいか分からなかった学生にやり方を丁寧に教えてくださったり、共同活動や日頃のあいさつ、近所付き合いを通して、団地での生活に馴染んでいる様子が伺えました。

### | 「楽座ルーム」の利用・運営

課外活動の制限により近江楽座の活動期間も短かったため、使用回数が減少し、年間8回の利用となりました。

近江楽座の各プロジェクトが制作、勉強会、荷物搬入等で7回利用し、部屋の維持管理や環境整備を1回行いました。



ミーティングルーム



キッチン  
商品開発・勉強会などに活用

## 5 その他トピックス

ボランティアサークル Harmony が、令和2年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

この表彰は、文部科学省が障害者の生涯を通じて多様な学習を支える活動を行う個人または団体を表彰する制度で、本年度が4回目です。ボランティアサークル Harmony は、大学における活動として全国の10団体の一つとして功労者表彰を受賞しました。

### Ⅰ 表彰式視聴会、表彰伝達式

日時：2020年12月8日（火） 12:10-13:15

場所：交流センター ホール

表彰式はオンラインで開催されました。共に活動しているNPO法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーのメンバーの方々にも参加していただき、大学にて表彰式視聴会、引き続いて表彰伝達式を開催しました。



廣川理事長から表彰状の伝達



ボランティアサークル Harmony と NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー、学内関係者

### Ⅰ 受賞を滋賀県知事に報告しました

日時：2021年1月15日（金）

場所：滋賀県庁

令和2年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞したことを三日月滋賀県知事に報告しました。

当日はボランティアサークル Harmony のメンバーと、共に活動してくださっている NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーから滋賀県立大学の卒業生が参加されました。

三日月知事からは、受賞の一報を聞いて新型コロナウイルスで大学生も大変な状況の中、一筋の光を見たように感じたと言っていただきました。また、活動に参加したきっかけや将来の夢などについて質問していただき、激励の言葉をいただきました。



ボランティアサークル Harmony が知事に活動を紹介

### Ⅰ 本学の学生表彰を受賞

学生表彰は各学科において総合的に優れた学業成績をあげた学生や、学術研究活動等で優れた評価や成績をあげた学生に贈られるものです。「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰の受賞が評価され団体として表彰されました。



**情報発信**

## | 近江楽座ホームページの運営

URL : <http://ohmirakuza.net/>

滋賀県立大学における、学生の地域活動に関するポータルサイトでもある近江楽座ホームページの運営を行い、随時最新情報を更新しています。

<楽座文庫等への追加コンテンツ>

「近江楽座 活動報告書」、「近江楽座 START BOOK(キャンパスガイド)」、活動紹介動画「2019年度近江楽座プロジェクト ギャラリー」等を追加

## | 活動紹介リーフレット 2020

デザイン：龍見瑞季

取材協力：小林すみれ、岡田龍介

近江楽座プロジェクトで活動する学生に依頼し、近江楽座全体の取組や、2020年度近江楽座に採択されたAプロジェクト20件とBプロジェクト1件を写真入りで紹介するリーフレットを作成しました。リーフレットのデザインと近江楽座OB・OGにインタビューした「-VOICE-先輩の声」の取材は近江楽座で活動する学生に協力いただきました。

リーフレットは近江楽座ホームページの楽座文庫からご覧いただけます。



近江楽座活動紹介リーフレット 2020

## | CAMPUS GUIDE 2021

キャンパスガイドに近江楽座の活動を紹介したブックインブック「近江楽座 START BOOK」を制作しました。



近江楽座 START BOOK

## | 活動紹介動画の作成

近江楽座では2019年度も22チームが県内はもとより県外や海外においても広く活動しましたが、2020年度当初は活動が制限され、2019年度の活動成果報告会も開催することができませんでした。

そこで2019年度の近江楽座の活動を紹介するために、近江楽座チームの取組を紹介する動画を2本作成しました。

<掲載ページ>

[http://ohmirakuza.net/  
other\\_topics/  
2019teammovie/](http://ohmirakuza.net/other_topics/2019teammovie/)



## 7 付録

## 7-1 プログラム推進メンバー※

事業推進代表者  
事業推進責任者

滋賀県立大学理事長 廣川能嗣  
近江楽座専門委員会 委員長 印南比呂志

### 近江楽座専門委員会

環境科学部	浦部美佐子 林宰司 平岡俊一 金子尚志 迫田正美
工学部	河崎澄 柳澤淳一
人間文化学部	石川慎治 印南比呂志 佐々木一泰 原未来
人間看護学部	伊丹君和 横井和美
地域共生センター	鵜飼修

### 近江楽座事務局

秦憲志  
前川瑛美梨  
高谷美穂

※ 2020 年度 (2021 年 3 月末時点)

このほか、近江楽座に関わり支援いただいたすべての方にお礼申し上げます。



## 7-2 メディア掲載一覧

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
1	2020.7.1	BAMBOO HOUSE PROJECT	えーまちこなんの情報紙 Konan	こなん pickup! 荒れ果てた竹林が子どもたちの秘密基地に大変身!
2	2020.12.8	あかりんちゅ	中日新聞	郭町商店街にキャンドル1000本 OKBストリート命名7周年
3	2021.1.26	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞	ひな人形 町内5カ所見て回ろう スタンプラリーも
4	2020.11.26	ボランティアサークル Harmony	中日新聞	障害のある人と一緒に X マス音楽会楽しく28日、オンラインで
5	2020.12.8	ボランティアサークル Harmony	びわ湖放送	県立大学サークル文科大臣賞
6	2020.12.9	ボランティアサークル Harmony	中日新聞	県立大「Harmony」文科大臣賞 特支学校の子どもらと長年交流
7	2020.12.11	ボランティアサークル Harmony	ZTV 彦根放送局 おうみ!かわら版彦根	ボランティアサークルハーモニーが文部科学大臣表彰を受賞
8	2020.12.12	ボランティアサークル Harmony	しが彦根新聞	県大生のハーモニー文科大臣表彰 17年間の障害者の支援活動評価
9	2021.1.8	ボランティアサークル Harmony	京都新聞	Harmony 文科大臣表彰 滋賀県立大ボランティアサークル 県内初
10	2021.1.16	ボランティアサークル Harmony	中日新聞	障害者支援の県立大サークル 文科相表彰を知事に報告
11	2021.2	ボランティアサークル Harmony	はっさか第52号	「大会出場激励金授与式」
12	2020.9.3	廃棄物バスターズ	YouTube チャンネル「海と日本プロジェクト」	滋賀県立大学 ～廃棄物バスターズ～ 日本財団 海と日本 PROJECT in 滋賀県 2020 #19
13	2020.9.16	廃棄物バスターズ	海と日本 PROJECT in 滋賀県ウェブサイト	「海ごみPR大使」野洲のおっさんとごみ拾い!
14	2020.9.22	廃棄物バスターズ	びわ湖放送 「知ったかぶりカイツブリにゅーす」	秋の海ゴミゼロウィークイベントレポート
15	2020.9.19	廃棄物バスターズ	京都新聞	湖美化で海もきれいに 県立大生ら25人 彦根の湖岸で清掃活動
16	2021.1.17	廃棄物バスターズ	中日新聞	県立大グループ 微小プラごみに警鐘 掃除し分析「バスターズ」
17	2021.1.22	廃棄物バスターズ	YouTube チャンネル「地域にとび出す! 滋賀県地球温暖化防止活動推進センター」	「STOP! 地球温暖化バスターズ」
18	2021.2.1	廃棄物バスターズ	滋賀県ウェブサイト「ごみゼロしが ごみ減量・資源化の取組」	事業者による取組事例 特集1: プラスチックごみ削減の取組 プラスチックごみ削減の取組紹介 vol.9
19	2021.2.16	廃棄物バスターズ	びわ湖放送 「知ったかぶりカイツブリにゅーす」	「STOP! 地球温暖化バスターズ」
20	2020.9.10	政所茶レン茶 <sup>®</sup>	近畿農政局ウェブサイト	近畿における食育の事例 近畿管内の食育活動の取組 政所茶レン茶 <sup>®</sup> (滋賀県立大学)[滋賀県]
21	2020.12.19	おとくらプロジェクト	滋賀彦根新聞	子どもと動物リアルに描く
22	2020.9.24	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム	中日新聞	絆つなぐファンド協力を 南三陸・田の浦支援の県立大生



No	日 時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
23	2020.9.26	田の浦ファンクラブ学 生サポートチーム	しが彦根新聞	返礼品のパッケージデザイン 被災地支援の県 大生、寄付呼びかけ
24	2020.10.10	田の浦ファンクラブ学 生サポートチーム	京都新聞	南三陸町支援 呼び掛け 大震災で県大生グ ループ 返礼品ワカメ 包装デザイン一新
25	2020.10.14	田の浦ファンクラブ学 生サポートチーム	読売新聞	返礼ワカメ デザイン一新 県立大生 田の浦 支援基金 来年震災10年へPR
26	2021.3.11	田の浦ファンクラブ学 生サポートチーム	NHK 大津 630	【防災応援メモ】東日本大震災から10年 滋 賀から思いを寄せる～滋賀の大学生活動から～
27	2021.3.12	田の浦ファンクラブ学 生サポートチーム	中日新聞	田の浦支援 これからも 活動の県立大生 オンラインで追悼
28	2021.3.12	田の浦ファンクラブ学 生サポートチーム	産経新聞	800キロ先を思い追悼 県立大ではオンライン イベント
29	2020.11	近江楽座	SHIGA SDGs Studios Booklet 2020	滋賀県 環びわ湖・大学 SDGs マップ 2020
30	2021.4.23	近江楽座	ZTV 彦根放送局	「おうみ!かわら版彦根」2021年4月23日更 新号

## 7-3 新型コロナウイルス感染拡大防止のための近江楽座活動指針

本指針は、近江楽座の活動において新型コロナウイルスの感染拡大防止のため対応すべき事項を示すものです。

自分と仲間、関係する地域の人たちの生命と健康を守ることを第一に、リスク管理を徹底し、地域との関係や感染情勢を考慮し、どのような活動ができるのか十分に留意して、活動を行って下さい。本指針が守られない場合は活動休止を求めることがあります。

### 1. 基本事項

- ・「クラブ・サークルなどの課外活動指針（以下、「課外活動指針」という。）」（学生支援センター）に基づき、本指針により進めること。（課外活動指針による課外活動計画書・課外活動報告書は近江楽座のプロジェクト申請書等で対応することとし、提出は求めません。）
- ・感染拡大防止策（「新しい大学生生活ガイド～Save your life～」）を遵守して活動すること。
- ・地域の方々や団体等と感染拡大防止を踏まえた活動方針を協議して進めること。

### 2. 遵守すべき事項

#### (1) 活動計画・実績報告書の提出

- ・活動計画・実績報告書（別紙様式）を毎月15日までに作成して事務局あて提出すること。

#### (2) 打合せや活動における感染防止対策

- ・打合せや活動は学内外に関わらず、人数に応じて3密（密集・密接・密閉）を回避できる身体的距離を保てる場所で行うこと。
- ・活動前後には必ず石鹸による手洗いを行うこと。石鹸がない場合は、アルコール等で確実に手指消毒すること。

- ・マスクを必ず着用し、真正面でも向き合っただの会話や大声の会話は控えること。
- ・屋内ではこまめに換気を行うこと。
- ・事前に資料を配布する等、打合せ時間が長くないようにすること。
- ・活動前後の学内外での特に飲食を伴う集まり、飲み会、食事会を控えること。

#### (3) 地域活動における感染防止対策

- ・活動を実施するにあたり、地域の方や連携する団体と十分に相談しながら、感染拡大防止策を講じること。
- ・地域には子どもや高齢者もおられることから、人と関わる活動は感染防止に十分に努めること。
- ・3密を避ける場づくりを徹底すること。人数制限等、活動する場所に応じた対応を図ること。
- ・人と場所、時間の配分を考慮すること。万全な準備と作業や内容の分散、リモート技術の活用など、活動スタイルの工夫を図ること。

#### (4) 体調管理の徹底

- ・活動に参加する学生は自己の体調管理を万全に行うこと。日常においても、感染リスクを極力避ける生活を心がけること。
- ・活動を始める前には、参加メンバー全員の体調確認を必ず行うこと。発熱や風邪の症状、嗅覚・味覚異常などの体調不良の場合の参加は認めない。
- ・活動中にこうした症状が見られた場合、速やかに事務局に連絡するとともに、帰国者・接触者相談センターに相談すること。

#### (5) 施設・設備の管理、第三者を含む催し等の感染防止対策

- 施設や建物を利用し、第三者を含む催し等を行う際には、消毒液の常備、設備・備品の消毒、換気、3密を避けるなど、来場者の感染防止策を万全に行うこと。

(6) その他

- 行動範囲が県外に及ぶ時は、最新の情勢を踏まえ慎重に対応することとし、事前に事務局へ相談すること。

別紙様式

**近江楽座 活動計画・実績報告書**

年 月 日

代表者： チーム名 \_\_\_\_\_  
 学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

	活動計画(実施前月 15 日までに提出)	活動実績(実施翌月 15 日までに提出)
日程		
場所		
活動内容		
感染拡大防止策		

※参加者名簿は実績報告時に記入して下さい。

	学籍番号	氏名	学籍番号	氏名
	1			9
2			10	
3			11	
4			12	
5			13	
6			14	
7			15	
8			16	

活動計画・実績報告書の様式



## 7-4 新型コロナウイルス関連の対応(まとめ)

	~4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
大学全体	● オリエンテーション	前期【遠隔授業】		● 分散登校 (2~4回生) ● 分散登校 (1回生)	【対面授業(実験・実習等)】		後期【対面授業】 教室の定員 1/2 収容、 消毒液設置、換気等の 基本的な感染防止対策 の実施
課外活動	● 課外活動の自粛			● 7/19 クラブ・サークル オンライン新歓	クラブ・サークルなどの課外活動指針		課外活動の再開 活動計画書、活動報告書の提出 基本的な感染防止対策の実施など
近江楽座	● 4/20~ 新生へへの学生メッセージ	● 5/25 活動アンケート ● 5/28 活動紹介動画の配信		活動指針策定 (感染対策の徹底、 地域への説明と理解、 飲食提供の中止等) 公募準備	プロジェクト 募集	● 8/6 近江楽座の活動指針の発表 活動計画・実績報告書の提出	● 9/8 プレゼンテーション・審査会 ● 9/11 結果発表 活動支援開始
						● 8/31 近江楽座 HP チームメッセージ公開	

### 課外活動の「新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる大学活動レベル」

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7/29 から適用			1			1/8	2	3/4 1

レベル0 : 通常通り

レベル1 : 感染防止策を講じて可

レベル2 : 原則不可

レベル3、レベル4、レベル5 : 不可

## | チームへのお知らせ

配信日	タイトル	内容
2020.3.5	新型コロナウイルス感染症について	新型コロナウイルス感染症にかかる行事等の取扱いについて
2020.3.19	新入生勧誘チラシの配布について	入学式中止による勧誘チラシ配布中止の代替について
2020.4.2	新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる近江楽座の活動について	授業開始の延期に伴う学生の活動について
2020.4.9	活動成果報告会と今後の予定について	活動成果報告会の延期と代表者ミーティングについて
2020.4.17	新入生へのメッセージの募集	大学 HP 掲載の新入生向けメッセージの募集
2020.5.25	アンケートのお願い	ネット環境・使用状況の調査、2020 年度の活動についてのアンケート
2020.6.3	アンケート協力のお礼	WEB 会議についてと 2020 年度の活動についてのアンケートの回答
2020.6.18	第 2 回支援食糧配布会の案内	支援食糧配布会の案内と今後のスケジュールについて
2020.6.30	2018 年度活動報告書の発行と公開について	2018 年度活動報告書の発行・WEB 公開のお知らせと新入生向け広報について
2020.7.28	2020 年度の近江楽座活動募集について	2020 年度プロジェクト募集のスケジュールについて
2020.8.6	近江楽座活動指針とプロジェクト募集開始について	近江楽座活動指針の策定と 2020 年度プロジェクト募集開始のお知らせ
2020.8.7	1 回生・受験生向けメッセージの募集	近江楽座 HP 掲載の新入生向けメッセージと WEB オープンキャンパス掲載の受験生向けメッセージの募集
2020.9.2	近江楽座プレゼンテーション (9/8) についてのお知らせ	プレゼンテーションのスケジュールと詳細のお知らせ
2020.9.16	活動説明を近江楽座 HP 学生専用ページで公開	活動説明会に代わる WEB での活動説明について
2020.10.15	キャンパス SDGs、合同説明会、情報交換会、湖風祭のお知らせ	キャンパス SDGs のパネル出展者募集、近江楽座合同説明会、プロジェクト情報交換会、湖風祭での団体 PR 動画の募集のお知らせ
2020.10.26	プロジェクト情報交換会の日程決定	プロジェクト情報交換会の日程お知らせ
2020.11.10	新型コロナウイルス感染拡大防止 (注意喚起)	新型コロナウイルス感染拡大の注意喚起
2020.11.17	助成金中間ヒアリングについて	助成金の中間ヒアリングについて
2021.1.8	大学活動レベル引き上げにともなう近江楽座の活動について (1 月 8 日~)	大学活動レベル引き上げにともなう近江楽座の活動について
2021.3.4	大学活動レベル引き下げにともなう近江楽座の活動について (3 月 4 日~)	大学活動レベル引き下げにともなう近江楽座の活動について
2021.3.16	活動紹介動画の募集	新入生向けの活動アピールとしての活動紹介動画の募集
2021.3.29	2020 年度近江楽座 活動成果報告会について	活動成果報告会の概要について
2021.4.15	新しい大学活動レベルと活動指針についてのお知らせ	新しい大学活動レベルと課外活動指針について
2021.4.16	活動成果報告会時の活動紹介ブース出展の募集	活動成果報告会の視聴会と活動紹介ブースの出展募集

## ｜ 近江楽座ホームページ掲載お知らせ

掲載日	タイトル	内容
2020.4.20	2020 年度近江楽座に関するお知らせ (5/8 更新)	2020 年度プロジェクト募集と 2019 年度活動成果報告会の延期について
2020.5.18	近江楽座から新入生の皆さんへのメッセージ	大学 HP 掲載の新入生向けメッセージ
2020.5.28	2019 年度近江楽座チームの取組をまとめた動画を作成しました!	2019 年度近江楽座プロジェクトギャラリー
2020.8.6	「新型コロナウイルス感染拡大防止のための近江楽座活動指針」について	「新型コロナウイルス感染拡大防止のための近江楽座活動指針」と活動計画・実績報告書の様式
2020.8.6	2020 年度近江楽座プロジェクト募集 (8/6~8/31) を開始します	2020 年度プロジェクト募集について
2020.8.31	2019年度プロジェクト紹介&メッセージ	近江楽座 HP 掲載新入生向けメッセージ

公立大学法人 滋賀県立大学  
「近江楽座」

## 2020 年度活動報告書

2022 年 2 月発行

発行 公立大学法人 滋賀県立大学  
地域共生センター  
〒 522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500  
TEL. 0749-28-8616 FAX. 0749-28-8473

企画・編集 近江楽座事務局  
印刷・製本 近江印刷株式会社  
構成・デザイン 前川瑛美梨

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています

最新情報は、近江楽座ホームページ：<http://ohmirakuza.net/> をぜひ御覧ください

近江楽座